

仕事の振り返りシート（令和7年度実施分）

事業名	生涯学習推進支援事業	実施計画事業or一般事業	一般事業	市長公約①	1-①	市長公約②	該当なし	総合戦略	該当なし
		施策横断的な取組との関連性	SDGs		該当あり	コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ	該当あり

1. 基本情報

担当組織	部	教育部	予算中事業名	予算科目	会計	一般	事業計画	単年度繰り返し	
	課	生涯学習課			生涯学習推進支援事業	款	10	新規or継続	継続事業
	係	生涯学習係				項	4	市単独or国庫補助	市単独事業
政策体系	体系コード	4211	名称		根拠法令、条例等	目	1	義務or任意	任意の事業
	基本目標	4	豊かな心を育み、学び合うまちづくり	—	事業期間	開始年度	H3	実施方法	直営
	政策	2	地域とともに学び育てるまちづくり			終了年度	—	事業分類	イベント等開催事業
	施策	1	生活を豊かにする生涯学習の推進						
	基本事業	1	学習情報及び場の提供						

2. 事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

（1）事業概要

事業概要	市民が主体となった生涯学習のまちづくりを推進するため、生涯学習を推進する民間団体等と連携・協働しながら、効果的に生涯学習施策・事業を展開する。具体的には、楽習講師による企画講座がある。
------	--

（2）目的

目的 (本事業によって成し 遂げたい 状態)	楽習講師が学習成果を活かした講座を積極的に企画する。 市民が生涯学習に取り組むきっかけづくりとして、多くの講座に参加 する。	効果指標	単位	指標の性質	R7	R8	R9	R10	R11
		楽習講師登録者数	人	値が大きいほど良い	170	115	120	125	130
		一人あたりの楽習講師が社会還元した件数	件	値が大きいほど良い	2.1	1.6	1.7	1.8	1.9

3. 前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

（1）活動実績

活動実績 (R7年度に行った主な活動内容)	楽習講師企画講座 17回、218人受講 活躍人養成講座は実施なし	活動指標	単位	R4	R5	R6	R7
		楽習講師企画講座開催回数	回	19	23	18	17
		企画講座受講者数	人	134	284	224	218
		事業費計	千円	3	11	10	0
		一般財源	千円	3	11	10	0
		特定財源（国・県・他）	千円	0	0	0	0
		（うち受益者負担）	千円	0	0	0	0

（2）活動を説明する数値データ及び事業費の推移

（3）活動による効果

効果説明	令和６年度に比べ、楽習講師の登録者数は微増となっている。楽習講師による企画講座を実施することで、学習で培った知識、技術の社会への還元を図っている。	効果指標	単位	R4	R5	R6	R7	過去比較	目標達成
		楽習講師登録者数	人	130	126	107	111	効果が下がった	×
		一人あたりの楽習講師が社会還元した件数	件	1.2	1.5	1.6	1.5	効果が上がった	×

（5）目標達成、効果、費用増減（自動判定）

目標達成	目標達成した指標数	0指標			効果		
	目標未達成だった指標数	2指標			効果が上がった		
効果 (R7と過去3年平均の指標値増減)	効果が上がった指標数	1指標	目標達成 未達成 目標未設定	1指標	効果は変わらない	効果が下がった	
	効果は変わらない指標数	0指標					
	効果が下がった指標数	1指標					
	指標全体	効果は変わらない					
費用（R7とR6の事業費計増減）		費用の増減無し	※ 1 0 万円以上の増減により判断				

4. 次年度に向けた検討

（1）令和7年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

魅力あるボランティア活動として定着するよう、楽習講師の活躍の場を広げる必要がある。そのため、企画講座の紹介や広報を充実させる。

（2）上記反省点及び課題を踏まえた、令和8年度及び9年度の取組

☐ 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成） ☐ 事業費の見直し検討（新たな歳入確保・受益者負担含む） ☐ 業務の効率化・高度化（デジタル化）検討 ☐ 業務の効率化（デジタル化以外の業務手順・手法の見直し）検討 ☐ その他の検討 ☒ 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）	取組説明 学習成果を活かした講座を積極的に行えるよう支援を行い、新たなボランティア講師の登録を促進するための講座を行う。また、オンライン講座については、要望があれば対応していく。
---	--

仕事の振り返りシート（令和7年度実施分）

事業名	生涯学習推進計画策定事業	実施計画事業or一般事業	実施計画事業	市長公約①	該当なし	市長公約②	該当なし	総合戦略	該当なし
		施策横断的な取組との関連性	SDGs		該当あり	コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ	該当なし

1. 基本情報

担当組織	部	教育部		予算中事業名	予算科目	会計	一般	事業計画	単年度繰り返し	
	課	生涯学習課				款	10	新規or継続	継続事業	
	係	生涯学習係				項	4	市単独or国庫補助	市単独事業	
政策体系	体系コード	4211	名称	根拠法令、条例等		目	2	義務or任意	任意の事業	
	基本目標	4	豊かな心を育み、学び合うまちづくり			事業期間	開始年度	H29	実施方法	直営
	政策	2	地域とともに学び育てるまちづくり			終了年度	－	事業分類	計画策定・管理事業	
	施策	1	生活を豊かにする生涯学習の推進							
	基本事業	1	学習情報及び場の提供							

2. 事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

（1）事業概要

事業概要	第2次佐野市生涯学習推進中期基本計画が令和7年度に終了となるため、令和8年度から11年度までの4か年を計画期間とした第2次佐野市生涯学習推進後期基本計画を策定する。
------	--

（2）目的

目的 (本事業によって成し遂げたい状態)	市民一人ひとりの参画と協働による「市民参加による自立したまちづくり」の実現を目指した計画を策定する。	効果指標	単位	指標の性質	R7	R8	R9	R10	R11
		策定計画数	件	値が大きいほど良い	1	0	0	0	1

3. 前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

（1）活動実績

活動実績 (R7年度に行った主な活動内容)		活動指標	単位	R4	R5	R6	R7
	6月 第1回生涯学習推進本部専門部会(書面)	生涯学習推進協議会開催数	回	2	1	1	2
	7月 第1回生涯学習推進協議会	推進協議会に関連する庁内会議開催数	回	1	1	1	4
	8月 第2回生涯学習推進協議会						
	9月 後期基本計画について市長へ答申						
	10月 第1回生涯学習推進本部幹事会	事業費計	千円	0	0	0	120
	第1回生涯学習推進本部会議	一般財源	千円	0	0	0	120
	11月 第2回生涯学習推進本部会議・幹事会合同会議(書面)	特定財源(国・県・他)	千円	0	0	0	0
	R8.1月 パブリックコメント	(うち受益者負担)	千円	0	0	0	0

（2）活動を説明する数値データ及び事業費の推移

（3）活動による効果

効果説明	市民参加による自立したまちづくりの実現のため、生涯学習推進基本計画に基づいた、生涯学習によるまちづくりのさらなる推進を図る。	効果指標	単位	R4	R5	R6	R7	過去比較	目標達成
		策定計画数	件	0.0	0.0	0.0	1.0	効果が上がった	○

（4）事業効果を説明する数値データの推移

（5）目標達成、効果、費用増減（自動判定）

目標達成	目標達成した指標数	1指標	効果		
	目標未達成だった指標数	0指標			
	効果が上がった指標数	1指標	効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった
	効果は変わらない指標数	0指標			
	効果が下がった指標数	0指標			
効果 (R7と過去3年平均の指標値増減)	指標全体	効果が上がった			
	費用（R7とR6の事業費計増減）	費用が増加した	※10万円以上の増減により判断		

4. 次年度に向けた検討

（1）令和7年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

（2）上記反省点及び課題を踏まえた、令和8年度及び9年度の取組

☐ 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成） ☐ 事業費の見直し検討（新たな歳入確保・受益者負担含む） ☐ 業務の効率化・高度化（デジタル化）検討 ☐ 業務の効率化（デジタル化以外の業務手順・手法の見直し）検討 ☐ その他の検討 ☒ 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）	取組説明
---	------

仕事の振り返りシート（令和7年度実施分）

事業名	葛生地区公民館市民教養講座開催事業	実施計画事業or一般事業	一般事業	市長公約①	該当なし	市長公約②	該当なし	総合戦略	該当なし
		施策横断的な取組との関連性	SDGs	該当あり		コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ	該当なし

1．基本情報

担当組織	部	教育部		予算中事業名	予算科目	会計	一般	事業計画	単年度繰り返し
	課	生涯学習課				款	10	新規or継続	継続事業
	係	葛生地区公民館				項	4	市単独or国庫補助	市単独事業
政策体系	体系コード	4211	名称	根拠法令、条例等		目	2	義務or任意	任意的事業
	基本目標	4	豊かな心を育み、学び合うまちづくり		事業期間	開始年度	H17	実施方法	直営
	政策	2	地域とともに学び育てるまちづくり			終了年度	－	事業分類	イベント等開催事業
	施策	1	生活を豊かにする生涯学習の推進						
	基本事業	1	学習情報及び場の提供						
				社会教育法 佐野市公民館条例					

2．事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

（1）事業概要

事業概要	葛生・常盤・氷室地区公民館における市民教養講座開事業。
------	-----------------------------

（2）目的

目的 (本事業によって成し遂げたい状態)	講座に参加し、その内容に満足することで、市民の自己学習能力向上につなげる。	効果指標	単位	指標の性質	R7	R8	R9	R10	R11
		講座に参加し満足した受講者の割合（葛生地区）	%	値が大きいほど良い	100	100	100	100	100
		講座に参加し満足した受講者の割合（常盤地区）	%	値が大きいほど良い	100	100	100	100	100
		講座に参加し満足した受講者の割合（氷室地区）	%	値が大きいほど良い	100	100	100	100	100

3．前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

（1）活動実績

活動実績 (R7年度に行った主な活動内容)	葛生・常盤・氷室地区公民館における市民教養講座の開催。	活動指標	単位	R4	R5	R6	R7
		3地区講座開催回数	回	38	42	43	44
		3地区講座参加者数	回	749	829	755	896
		事業費計	千円	206	169	145	155
		一般財源	千円	206	169	145	155
		特定財源（国・県・他）	千円				
		（うち受益者負担）	千円				

（3）活動による効果

効果説明	各地区の講座に参加し満足した受講者の割合は、年度によってばらつきはあるものの全体的には目標値に近い割合となっている。	効果指標	単位	R4	R5	R6	R7	過去比較	目標達成
		講座に参加し満足した受講者の割合（葛生地区）	%	93	99	100	95	効果が下がった	×
		講座に参加し満足した受講者の割合（常盤地区）	%	98	100	98	100	効果が上がった	○
		講座に参加し満足した受講者の割合（氷室地区）	%	100	100	100	100	効果は変わらない	○

（5）目標達成、効果、費用増減（自動判定）

目標達成	目標達成した指標数	2指標	効果				
	目標未達成だった指標数	1指標					
効果 (R7と過去3年平均 の指標値増減)	効果が上がった指標数	1指標	目標達成	達成	1指標	効果は変わらない	効果が下がった
	効果は変わらない指標数	1指標		未達成			
	効果が下がった指標数	1指標		目標未設定			1指標
		指標全体	効果は変わらない				
費用（R7とR6の事業費計増減）		費用の増減無し	※ 1 0 万円以上の増減により判断				

4．次年度に向けた検討

（1）令和7年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

市民が参加したいと思うような講座内容を検討・企画し、多くの方に参加していただけるような講座を開催する必要がある。
--

（2）上記反省点及び課題を踏まえた、令和8年度及び9年度の取組

☒ 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成） ☐ 事業費の見直し検討（新たな歳入確保・受益者負担含む） ☐ 業務の効率化・高度化（デジタル化）検討 ☐ 業務の効率化（デジタル化以外の業務手順・手法の見直し）検討 ☐ その他の検討 ☐ 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）	取組説明 参加者に対するアンケート結果の分析や時代のニーズをとらえることにより、より多くの方が参加し、満足度の高い講座を企画する。
---	--

仕事の振り返りシート（令和7年度実施分）

事業名	葛生地区公民館維持管理事業	実施計画事業or一般事業	一般事業	市長公約①	該当なし	市長公約②	該当なし	総合戦略	該当なし
		施策横断的な取組との関連性	SDGs	該当あり		コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ	該当なし

1．基本情報

担当組織	部	教育部		予算中事業名	予算科目	会計	一般	事業計画	単年度繰り返し
	課	生涯学習課				款	10	新規or継続	継続事業
	係	葛生地区公民館				項	4	市単独or国庫補助	市単独事業
政策体系	体系コード	4211	名称	根拠法令、条例等		目	2	義務or任意	任意の事業
	基本目標	4	豊かな心を育み、学び合うまちづくり		事業期間	開始年度	S54	実施方法	一部委託
	政策	2	地域とともに学び育てるまちづくり			終了年度	－	事業分類	施設維持管理事業
	施策	1	生活を豊かにする生涯学習の推進						
	基本事業	1	学習情報及び場の提供						
				葛生地区公民館維持管理事業					

2．事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

（1）事業概要

事業概要	葛生地区公民館の維持管理。
------	---------------

（2）目的

目的 （本事業によって成し遂げたい状態）	葛生地区公民館の利用者が安全で快適に施設を利用できるように、施設の維持管理を行う。	（3）目標値		↓選択して下さい		後期計画				
		効果指標	単位	指標の性質	R7	R8	R9	R10	R11	
		葛生地区公民館利用者数	人	値が大きいほど良い	5,000	6,000	6,500	6,500	6,500	

3．前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

（1）活動実績

活動実績 （R7年度に行った主な活動内容）	葛生地区公民館の維持管理、休日、夜間の施設管理委託。	活動指標	単位	R4	R5	R6	R7
		施設管理委託契約	件	1	1	1	1
		事業費計	千円	979	1,159	1,388	1,543
		一般財源	千円	948	1,124	1,333	1,502
		特定財源（国・県・他）	千円	31	35	55	41
		（うち受益者負担）	千円	31	35	55	41

（2）活動を説明する数値データ及び事業費の推移

（3）活動による効果

効果説明	葛生地区公民館を適切に維持できていることにより、利用者数が目標値を上回った。	効果指標	単位	R4	R5	R6	R7	過去比較	目標達成
		葛生地区公民館利用者数	人	4,954	5,569	6,119	5,001	効果が下がった	○

（4）事業効果を説明する数値データの推移

（5）目標達成、効果、費用増減（自動判定）

目標達成	目標達成した指標数	1指標	効果		
	目標未達成だった指標数	0指標	効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった
効果 （R7と過去3年平均の指標値増減）	効果が上がった指標数	0指標	目標達成	達成	1指標
	効果は変わらない指標数	0指標		未達成	
	効果が下がった指標数	1指標		目標未設定	
	指標全体	効果が下がった			
費用（R7とR6の事業費計増減）	費用が増加した		※ 1 0 万円以上の増減により判断		

4．次年度に向けた検討

（1）令和7年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

施設、備品が老朽化しており、施設の適切な修繕等を行いつつ、改修、修繕、備品の更新等の検討が必要。
--

（2）上記反省点及び課題を踏まえた、令和8年度及び9年度の取組

☒ 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成） ☐ 事業費の見直し検討（新たな歳入確保・受益者負担含む） ☐ 業務の効率化・高度化（デジタル化）検討 ☐ 業務の効率化（デジタル化以外の業務手順・手法の見直し）検討 ☐ その他の検討 ☐ 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）	取組説明 施設の老朽化に伴い、施設の建替えを含めた在り方を早急に進める。
---	---

仕事の振り返りシート（令和7年度実施分）

事業名	葛生地区公民館運営事業	実施計画事業or一般事業	一般事業	市長公約①	該当なし	市長公約②	該当なし	総合戦略	該当なし
		施策横断的な取組との関連性	SDGs	該当あり		コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ	該当なし

1．基本情報

担当組織	部	教育部		予算中事業名	予算科目	会計	一般	事業計画	単年度繰り返し
	課	生涯学習課		葛生地区公民館運営事業		款	10	新規or継続	継続事業
	係	葛生地区公民館				項	4	市単独or国庫補助	市単独事業
政策体系	体系コード	4211	名称	根拠法令、条例等	事業期間	目	2	義務or任意	任意的事業
	基本目標	4	豊かな心を育み、学び合うまちづくり			開始年度	H17	実施方法	直営
	政策	2	地域とともに学び育てるまちづくり			終了年度	－	事業分類	その他内部事務事業
	施策	1	生活を豊かにする生涯学習の推進						
	基本事業	1	学習情報及び場の提供						

2．事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

（1）事業概要

事業概要	葛生地区公民館の会計年度職員の人件費。
------	---------------------

（2）目的

目的 (本事業によって成し遂げたい状態)	葛生地区公民館の会計年度職員の人件費。	効果指標	単位	指標の性質	R7	R8	R9	R10	R11
		葛生地区公民館利用者数	人	値が大きいほど良い	5,000	6,000	6,500	6,500	6,500

3．前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

（1）活動実績

活動実績 (R7年度に行った主な活動内容)	葛生地区公民館の開館、教養講座の開催、サークル活動支援の人件費。	活動指標	単位	R4	R5	R6	R7
		サークル登録団体のべ利用件数	件	262	282	313	310
		事業費計	千円	4,858	5,344	7,107	7,728
		一般財源	千円	4,842	5,317	7,070	7,691
		特定財源（国・県・他）	千円	16	27	37	37
		（うち受益者負担）	千円				

（3）活動による効果

効果説明	葛生地区公民館を適切に維持できていることにより、利用者数が増加している。	効果指標	単位	R4	R5	R6	R7	過去比較	目標達成
		葛生地区公民館利用者数	人	4,954	5,569	6,119	5001	効果が下がった	○

（5）目標達成、効果、費用増減（自動判定）

目標達成	目標達成した指標数	1指標	効果		
	目標未達成だった指標数	0指標	効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった
効果 (R7と過去3年平均 の指標値増減)	効果が上がった指標数	0指標	目標達成	達成	1指標
	効果は変わらない指標数	0指標		未達成	
	効果が下がった指標数	1指標	目標未設定		
	指標全体	効果が下がった			
費用（R7とR6の事業費計増減）		費用が増加した	※ 1 0 万円以上の増減により判断		

4．次年度に向けた検討

（1）令和7年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

葛生地区公民館を適切に運営していくうえで、必要な事業費なので、今後も継続していく必要がある。 課題となっていた休日、夜間の管理委託内容を令和8年度から見直すこととした。

（2）上記反省点及び課題を踏まえた、令和8年度及び9年度の取組

☐ 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成） ☐ 事業費の見直し検討（新たな歳入確保・受益者負担含む） ☐ 業務の効率化・高度化（デジタル化）検討 ☒ 業務の効率化（デジタル化以外の業務手順・手法の見直し）検討 ☐ その他の検討 ☐ 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）	<table><tr><td>取組説明</td><td></td></tr><tr><td colspan="2">休日、夜間の施設管理については、令和8年度から管理委託内容の見直しを実施する。</td></tr></table>	取組説明		休日、夜間の施設管理については、令和8年度から管理委託内容の見直しを実施する。	
取組説明					
休日、夜間の施設管理については、令和8年度から管理委託内容の見直しを実施する。					

仕事の振り返りシート（令和7年度実施分）

事業名	葛生文化センター維持管理事業	実施計画事業or一般事業	一般事業	市長公約①	該当なし	市長公約②	該当なし	総合戦略	該当なし
		施策横断的な取組との関連性	SDGs		該当あり	コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ	該当なし

1．基本情報

担当組織	部	教育部		予算中事業名	予算 科目	会計	一般	事業計画	単年度繰り返し
	課	生涯学習課				款	10	新規or継続	継続事業
	係	葛生地区公民館				項	4	市単独or国県補助	市単独事業
政策体系	体系コード	4211	名称	根拠法令、条例等		目	2	義務or任意	任意の事業
	基本目標	4	豊かな心を育み、学び合うまちづくり		事業 期間	開始年度	S54	実施方法	一部委託
	政策	2	地域とともに学び育てるまちづくり			終了年度	－	事業分類	施設維持管理事業
	施策	1	生活を豊かにする生涯学習の推進						
	基本事業	1	学習情報及び場の提供						

2．事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

（1）事業概要

事業概要	葛生文化センターの維持管理。
------	----------------

（2）目的

目的 （本事業によって成し遂げたい状態）	葛生文化センターの利用者が安全で快適に施設を利用できるように、施設の維持管理を行う。	効果指標	単位	指標の性質	R7	R8	R9	R10	R11
		葛生地区公民館利用者数	人	値が大きいほど良い	5,000	6,000	6,500	6,500	6,500
		葛生化石館利用者数	人	値が大きいほど良い	24,200	24,400	24,600	24,800	25,000

3．前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

（1）活動実績

活動実績 （R7年度に行った主な活動内容）	葛生文化センターの維持管理。 利用者が安心して活動できるよう、施設の簡易的な修繕を行った。	活動指標	単位	R4	R5	R6	R7
		電気工作物保守点検	回	13	13	13	13
		消防用設備保守点検	回	2	2	2	2
		展示室燻蒸処理	回	1	1	1	1
		事業費計	千円	8,501	8,291	9,283	11,770
		一般財源	千円	8,487	8,290	9,283	11,770
		特定財源（国・県・他）	千円	14	1		
		（うち受益者負担）	千円				

（3）活動による効果

効果説明	葛生文化センターを適切に維持できていることにより、利用者数が目標値を上回った。	効果指標	単位	R4	R5	R6	R7	過去比較	目標達成
		葛生地区公民館利用者数	人	4,954	5,569	6,119	5,001	効果が下がった	○
		葛生化石館利用者数	人	16,606	16,481	22,495	20,136	効果が上がった	×

（5）目標達成、効果、費用増減（自動判定）

目標達成	目標達成した指標数	1指標	効果		
	目標未達成だった指標数	1指標	効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった
効果 （R7と過去3年平均の指標値増減）	効果が上がった指標数	1指標	目標達成	達成	1指標
	効果は変わらない指標数	0指標		未達成	
	効果が下がった指標数	1指標		目標未設定	
	指標全体	効果は変わらない			
費用（R7とR6の事業費計増減）	費用が増加した	※ 1 0 万円以上の増減により判断			

4．次年度に向けた検討

（1）令和7年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

施設、備品が老朽化しており、施設の適切な修繕等を行いつつ、施設の改修、修繕、備品の更新等の検討が必要。

（2）上記反省点及び課題を踏まえた、令和8年度及び9年度の取組

☒ 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成） ☐ 事業費の見直し検討（新たな歳入確保・受益者負担含む） ☐ 業務の効率化・高度化（デジタル化）検討 ☐ 業務の効率化（デジタル化以外の業務手順・手法の見直し）検討 ☐ その他の検討 ☐ 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）	取組説明 利用者が安全、安心、安全に公民館を利用できるように、施設、備品の適切な修繕、更新などを行っていく。また、施設の老朽化に伴い、施設の建替えを含めた在り方を早急に進める。
--	--

仕事の振り返りシート（令和7年度実施分）

事業名	葛生（常盤・氷室）公民館維持管理事業	実施計画事業or一般事業	一般事業	市長公約①	該当なし	市長公約②	該当なし	総合戦略	該当なし
		施策横断的な取組との関連性	SDGs		該当あり	コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ	該当なし

1．基本情報

担当組織	部	教育部		予算中事業名	予算科目	会計	一般	事業計画	単年度繰り返し
	課	生涯学習課		葛生（常盤・氷室）公民館		款	10	新規or継続	継続事業
	係	葛生地区公民館		維持管理事業		項	4	市単独or国県補助	市単独事業
政策体系	体系コード	4211	名称	根拠法令、条例等	事業期間	目	2	義務or任意	任意的事業
	基本目標	4	豊かな心を育み、学び合うまちづくり			開始年度	S46	実施方法	一部委託
	政策	2	地域とともに学び育てるまちづくり			終了年度	－	事業分類	施設維持管理事業
	施策	1	生活を豊かにする生涯学習の推進						
	基本事業	1	学習情報及び場の提供						

2．事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

（1）事業概要

事業概要	常盤地区公民館と氷室地区公民館の維持管理。
------	-----------------------

（2）目的

目的 （本事業によって成し遂げたい状態）	常盤地区公民館と氷室地区公民館の利用者が安全で快適に施設を利用できるように、施設の維持管理を行う。	（3）目標値	↓選択して下さい		後期計画				
		効果指標	単位	指標の性質	R7	R8	R9	R10	R11
		常盤地区公民館利用者数	人	値が大きいほど良い	4,000	4,700	4,700	4,700	4,700
		氷室地区公民館利用者数	人	値が大きいほど良い	1,600	2,900	2,900	2,900	2,900

3．前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

（1）活動実績

活動実績 （R7年度に行った主な活動内容）	施設の維持管理のための点検、機器の保守。	活動指標	単位	R4	R5	R6	R7
		電気設備の点検(常盤)	回	7	7	7	7
		浄化槽の点検（常盤、氷室）	回	12	12	12	12
		消防設備点検（常盤、氷室）	回	12	12	12	12
		事業費計	千円	2,928	3,275	3,814	4,988
		一般財源	千円	2,900	3,262	3,798	4,699
		特定財源（国・県・他）	千円	28	13	16	289
		（うち受益者負担）	千円	28	13	16	20

（2）活動を説明する数値データ及び事業費の推移

（3）活動による効果

効果説明	常盤地区公民館と氷室地区公民館を適切に維持できていることにより、利用者数が目標値を上回った。	効果指標	単位	R4	R5	R6	R7	過去比較	目標達成
		常盤地区公民館利用者数	人	3,919	4,428	4,670	4,696	効果が上がった	○
		氷室地区公民館利用者数	人	1,238	1,913	2,784	2,852	効果が上がった	○

（4）事業効果を説明する数値データの推移

（5）目標達成、効果、費用増減（自動判定）

目標達成	目標達成した指標数	2指標	効果		
	目標未達成だった指標数	0指標	効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった
効果 （R7と過去3年平均の指標値増減）	効果が上がった指標数	2指標	目標達成	達成	2指標
	効果は変わらない指標数	0指標		未達成	
	効果が下がった指標数	0指標		目標未設定	
	指標全体	効果が上がった			
費用（R7とR6の事業費計増減）		費用が増加した	※ 1 0 万円以上の増減により判断		

4．次年度に向けた検討

（1）令和7年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

公民館が老朽化しており、施設の適切な修繕による維持や氷室地区公民館の改修等の検討が必要。
--

（2）上記反省点及び課題を踏まえた、令和8年度及び9年度の取組

☒ 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成） ☐ 事業費の見直し検討（新たな歳入確保・受益者負担含む） ☐ 業務の効率化・高度化（デジタル化）検討 ☐ 業務の効率化（デジタル化以外の業務手順・手法の見直し）検討 ☐ その他の検討 ☐ 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）	取組説明 利用者が安全、安心、安全に公民館を利用できるように、施設の適切な修繕などを行い、施設の維持管理、運営を行っていく。また、耐震性能を満たしていない常盤地区公民館に関し、移転等の手続きを進める。
---	---

仕事の振り返りシート（令和7年度実施分）

事業名	葛生（常盤・氷室）公民館運営事業	実施計画事業or一般事業	一般事業	市長公約①	該当なし	市長公約②	該当なし	総合戦略	該当なし
		施策横断的な取組との関連性	SDGs		該当あり	コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ	該当なし

1．基本情報

担当組織	部	教育部		予算中事業名	予算科目	会計	一般	事業計画	単年度繰り返し	
	課	生涯学習課		葛生（常盤・氷室）公民館		款	10	新規or継続	継続事業	
	係	葛生地区公民館		運営事業		項	4	市単独or国県補助	市単独事業	
政策体系	体系コード	4211		名称	根拠法令、条例等	目	2	義務or任意	任意的事業	
	基本目標	4 豊かな心を育み、学び合うまちづくり		佐野市公民館条例		事業期間	開始年度	H17	実施方法	直営
	政策	2 地域とともに学び育てるまちづくり					終了年度	－	事業分類	その他内部事務事業
	施策	1 生活を豊かにする生涯学習の推進								
	基本事業	1 学習情報及び場の提供								

2．事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

（1）事業概要

事業概要	常盤地区公民館と氷室地区公民館の会計年度任用職員の人件費。
------	-------------------------------

（2）目的

目的 （本事業によって成し 遂げたい状態）	常盤地区公民館と氷室地区公民館の会計年度任用職員の人件費。	効果指標	単位	指標の性質	R7	R8	R9	R10	R11
		常盤地区公民館利用者数	人	値が大きいほど良い	4,000	4,700	4,700	4,700	4,700
		氷室地区公民館利用者数	人	値が大きいほど良い	1,600	2,900	2,900	2,900	2,900

（3）目標値

↓選択して下さい

後期計画

3．前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

（1）活動実績

活動実績 （R7年度に行った主な活動内容）	常盤地区公民館と氷室地区公民館の開館、教養講座の開催、サークル活動支援の人件費。	活動指標	単位	R4	R5	R6	R7
		サークル登録団体のべ利用件数（常盤）	件	194	181	188	196
		サークル登録団体のべ利用件数（氷室）	件	65	66	66	73
		事業費計	千円	5,536	6,032	7,750	8,475
		一般財源	千円	5,517	6,001	7,710	8,436
		特定財源（国・県・他）	千円	19	31	40	39
		（うち受益者負担）	千円				

（2）活動を説明する数値データ及び事業費の推移

（3）活動による効果

効果説明	常盤地区公民館と氷室地区公民館を適切に運営していることにより、利用者数が増加している。	効果指標	単位	R4	R5	R6	R7	過去比較	目標達成
		常盤地区公民館利用者数	人	3,919	4,428	4,670	4,696	効果が上がった	○
		氷室地区公民館利用者数	人	1,238	1,913	2,784	2,852	効果が上がった	○

（4）事業効果を説明する数値データの推移

（5）目標達成、効果、費用増減（自動判定）

目標達成	目標達成した指標数	2指標	効果	効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった
	目標未達成だった指標数	0指標				
効果 （R7と過去3年平均の指標値増減）	効果が上がった指標数	2指標	目標達成	達成	2指標	
	効果は変わらない指標数	0指標		未達成		
	効果が下がった指標数	0指標		目標未設定		
	指標全体	効果が上がった				
費用（R7とR6の事業費計増減）		費用が増加した	※ 1 0 万円以上の増減により判断			

4．次年度に向けた検討

（1）令和7年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

常盤地区公民館と氷室地区公民館を適切に運営していくうえで、必要な事業費なので、今後も継続していく必要がある。
--

（2）上記反省点及び課題を踏まえた、令和8年度及び9年度の取組

☐ 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成） ☐ 事業費の見直し検討（新たな歳入確保・受益者負担含む） ☐ 業務の効率化・高度化（デジタル化）検討 ☐ 業務の効率化（デジタル化以外の業務手順・手法の見直し）検討 ☐ その他の検討 ☒ 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）	取組説明
---	------

仕事の振り返りシート（令和7年度実施分）

事業名	公民館親と子の交流活動事業	実施計画事業or一般事業	一般事業	市長公約①	該当なし	市長公約②	該当なし	総合戦略	該当なし
		施策横断的な取組との関連性	SDGs		該当あり	コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ	該当あり

1．基本情報

担当組織	部	教育部		予算中事業名	予算科目	会計	一般	事業計画	単年度繰り返し
	課	生涯学習課				款	10	新規or継続	継続事業
	係	中央公民館				項	4	市単独or国庫補助	市単独事業
政策体系	体系コード	4211	名称	根拠法令、条例等		目	2	義務or任意	任意的事業
	基本目標	4	豊かな心を育み、学び合うまちづくり		事業期間	開始年度	S51	実施方法	直営
	政策	2	地域とともに学び育てるまちづくり			終了年度	－	事業分類	イベント等開催事業
	施策	1	生活を豊かにする生涯学習の推進						
	基本事業	1	学習情報及び場の提供						

2．事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

（1）事業概要

事業概要	5歳から8歳までの子どもとその親に対し、子の心身の健全な育成と親子の心の交流促進を図るうえで、学習グループ活動講座を土曜日又は日曜日の午前に行う。
------	---

（2）目的

目的 （本事業によって成し遂げたい状態）	親子の交流活動により学ぶ楽しさを知る、自己学習能力の向上並びに親子の信頼関係の醸成を推進する。	効果指標	単位	指標の性質	R7	R8	R9	R10	R11
		講座内容が充実していたと感じる受講者割合	%	値が大きいほど良い	100	100	100	100	100

3．前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

（1）活動実績

活動実績 （R7年度に行った主な活動内容）	・令和元年度から「親と子のふれあい活動」を土曜日又は日曜日に中央公民館及び田沼中央公民館の2館において開催している。 ・令和7年度は、親子で学ぶ防災教室、大人も子供も楽しめる色の魔法パステルアート、押し花でトリック貯金箱を作ろう、音楽とリズムで元氣いっぱい、クリスマスハーバリウムを作ろう、ヒヨコマめクリスマスコンサートの各講座を開催した。	活動指標	単位	R4	R5	R6	R7
		講座回数	回	12	12	12	12
		参加者延べ人数	人	361	291	328	338
		事業費計	千円	1,966	2,131	2,636	2,658
		一般財源	千円	1,960	2,121	2,624	0
		特定財源（国・県・他）	千円	6	10	12	2,658
		（うち受益者負担）	千円				

（3）活動による効果

効果説明	講座内容が充実していたと感じる受講者の割合は、年度によってばらつきがあるものの全体的に高くなっている。	効果指標	単位	R4	R5	R6	R7	過去比較	目標達成
		講座内容が充実していたと感じる受講者割合	%	100	100	100	100	効果が上がった	○

（5）目標達成、効果、費用増減（自動判定）

目標達成	目標達成した指標数	1指標	効果	効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった
	目標未達成だった指標数	0指標				
効果 （R7と過去3年平均の指標値増減）	効果が上がった指標数	1指標	目標達成	達成	1指標	
	効果は変わらない指標数	0指標		未達成		
	効果が下がった指標数	0指標		目標未設定		
	指標全体	効果が上がった				
費用（R7とR6の事業費計増減）	費用の増減無し	※ 1 0 万円以上の増減により判断				

4．次年度に向けた検討

（1）令和7年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

親子が参加したいと思うような講座内容を検討・企画し、多くの方に参加していただけるような講座を開催する必要がある。
--

（2）上記反省点及び課題を踏まえた、令和8年度及び9年度の取組

☐ 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成） ☐ 事業費の見直し検討（新たな歳入確保・受益者負担含む） ☐ 業務の効率化・高度化（デジタル化）検討 ☐ 業務の効率化（デジタル化以外の業務手順・手法の見直し）検討 ☒ その他の検討 ☐ 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）	取組説明	参加者に対するアンケート結果の分析や時代のニーズをとらえることにより、より多くの方が参加し、満足度の高い講座を企画する。また、オンライン開催については、要望があれば対応していく。
--	------	---

仕事の振り返りシート（令和7年度実施分）

事業名	「小さな親切」運動佐野支部支援事業	実施計画事業or一般事業	一般事業	市長公約①	該当なし	市長公約②	該当なし	総合戦略	該当なし
		施策横断的な取組との関連性	SDGs		該当あり	コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ	該当なし

1. 基本情報

担当組織	部	教育部		予算中事業名	予算科目	会計	一般	事業計画	単年度繰り返し
	課	生涯学習課		「小さな親切」運動佐野支部		款	10	新規or継続	継続事業
	係	社会教育係		支援事業		項	4	市単独or国県補助	市単独事業
政策体系	体系コード	4212	名称	根拠法令、条例等	事業期間	目	1	義務or任意	任意の事業
	基本目標	4	豊かな心を育み、学び合うまちづくり			開始年度	S59	実施方法	直営
	政策	2	地域とともに学び育てるまちづくり			終了年度	-	事業分類	支援事業
	施策	1	生活を豊かにする生涯学習の推進						
	基本事業	2	学習成果を活かす取組						
				社会教育法（第11条） 佐野市社会教育関係団体補 助金交付要領					

2. 事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

（1）事業概要

事業概要	「小さな親切」運動佐野支部に補助金を交付している。補助金は団体の運営費補助金的性格のものである。 同支部は佐野市内における「小さな親切」運動の普及推進を図り、もっと明るく住みよい郷土の建設に寄与することを目的として設立した団体である。
------	--

（2）目的

目的 (本事業によって成し遂げたい状態)	「小さな親切」運動佐野支部の円滑な運営と財政の健全化を図る。	効果指標	単位	指標の性質	R7	R8	R9	R10	R11
		団体の補助金執行率	%	値が大きいほど良い	100	100	100	100	100

3. 前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

（1）活動実績

活動実績 （R7年度に行った主な活動内容）	【市の活動】 ・補助金交付 【「小さな親切運動」佐野支部の活動】 ・小・中・義務教育学校交歓会の開催 ・ポスター、標語の作成等による「小さな親切」運動の普及等	活動指標	単位	R4	R5	R6	R7
		補助団体数	団体	1	1	1	1
		事業費計	千円	50	50	50	50
		一般財源	千円	50	50	50	50
		特定財源（国・県・他）	千円				
		（うち受益者負担）	千円				

（2）活動を説明する数値データ及び事業費の推移

（3）活動による効果

効果説明	団体の目的である、佐野市内における「小さな親切」運動を普及推進を支援することができた。	効果指標	単位	R4	R5	R6	R7	過去比較	目標達成
		団体の補助金執行率	%	100	100	100	100	効果は変わらない	○

（4）事業効果を説明する数値データの推移

（5）目標達成、効果、費用増減（自動判定）

目標達成	目標達成した指標数	1指標	効果		
	目標未達成だった指標数	0指標	効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった
効果 (R7と過去3年平均の指標値増減)	効果が上がった指標数	0指標	目標達成 達成 未達成 目標未設定	1指標	
	効果は変わらない指標数	1指標			
	効果が下がった指標数	0指標			
	指標全体	効果は変わらない			
費用（R7とR6の事業費計増減）	費用の増減無し		※ 1 0万円以上の増減により判断		

※ 1 0 万円以上の増減により判断

4. 次年度に向けた検討

（1）令和7年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

引き続き補助金の交付と合わせ、適時適切な助言や支援を行う。

（2）上記反省点及び課題を踏まえた、令和8年度及び9年度の取組

☐ 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成） ☐ 事業費の見直し検討（新たな歳入確保・受益者負担含む） ☐ 業務の効率化・高度化（デジタル化）検討 ☐ 業務の効率化（デジタル化以外の業務手順・手法の見直し）検討 ☐ その他の検討 ☒ 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）	取組説明

仕事の振り返りシート（令和7年度実施分）

事業名	佐野市子ども会連合会支援事業	実施計画事業or一般事業	一般事業	市長公約①	該当なし	市長公約②	該当なし	総合戦略	該当なし
		施策横断的な取組との関連性	SDGs		該当あり	コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ	該当なし

1. 基本情報

担当組織	部	教育部	予算中事業名	予算科目	会計	一般	事業計画	単年度繰り返し
	課	生涯学習課			款	10	新規or継続	継続事業
	係	社会教育係			項	4	市単独or国庫補助	市単独事業
政策体系	体系コード	4212	名称	事業期間	目	1	義務or任意	任意的事業
	基本目標	4	豊かな心を育み、学び合うまちづくり		開始年度	S50	実施方法	直営
	政策	2	地域とともに学び育てるまちづくり		終了年度	-	事業分類	支援事業
	施策	1	生活を豊かにする生涯学習の推進					
	基本事業	2	学習成果を活かす取組					
			根拠法令、条例等					
			社会教育法(第11条)、佐野市社会教育関係団体補助金交付要領					

2. 事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

（1）事業概要

事業概要	佐野市子ども会連合会へ補助金を交付することにより、団体の事業活動を充実・安定させ、本市の社会教育の推進を図る。 佐野市子ども会連合会は、市内26地区の子ども会育成会と連携し、子ども会育成会活動の充実と子どもたちの健全育成を図ることを目的として、日々活動している。
------	--

（2）目的

目的 (本事業によって成し遂げたい状態)	佐野市子ども会連合会の円滑な運営と財政の健全化を図る。	（3）目標値	↓選択して下さい		後期計画				
		効果指標	単位	指標の性質	R7	R8	R9	R10	R11
		団体の補助金執行率	%	値が大きいほど良い	100	100	100	100	100

3. 前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

（1）活動実績

活動実績 (R7年度に行った主な活動内容)	【市の活動】 ・補助金交付 ・事務局	活動指標	単位	R4	R5	R6	R7
		子ども会安全共済会加入者数(小学生)	人	5,010	4,857	4,625	4,647
		子ども会ジュニアリーダー研修会参加者数	人	0	0	24	12
	【佐野市子ども会連合会の活動】 ・子ども会安全共済会への加入（通年） ・子ども会ジュニアリーダー研修会（6月21日） ・佐野かるた取り大会（中止） ・子ども会育成者研修講座（中止）	佐野かるた取り大会参加者数	人	0	66	89	0
		事業費計	千円	1,010	1,050	1,050	1,050
		一般財源	千円	1,010			
		特定財源（国・県・他）	千円		1,050	1,050	1,050
		（うち受益者負担）	千円				

（2）活動を説明する数値データ及び事業費の推移

（3）活動による効果

効果説明	子ども会育成会活動の充実と子どもたちの健全育成を図ることができた。	効果指標	単位	R4	R5	R6	R7	過去比較	目標達成
		団体の補助金執行率	%	100	100	100	100	効果は変わらない	○

（4）事業効果を説明する数値データの推移

（5）目標達成、効果、費用増減（自動判定）

目標達成 (R7と過去3年平均の指標値増減)	目標達成した指標数	1指標	効果	効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった
	目標未達成だった指標数	0指標		達成	1指標	
	効果が上がった指標数	0指標		未達成		
	効果は変わらない指標数	1指標		目標未設定		
	効果が下がった指標数	0指標				
	指標全体	効果は変わらない				
費用（R7とR6の事業費計増減）	費用の増減無し	※ 1 0 万円以上の増減により判断				

4. 次年度に向けた検討

（1）令和7年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

「子ども会安全共済会への加入」、「子ども会ジュニアリーダー研修会」など団体の活動を支援した。「かるた取り大会」は感染症拡大により参加地区の学校に休校措置が出たため中止、「子ども会育成者研修講座」は実施しなかった。開催時期なども含め、事業の実施に向けて団体と検討していく。

（2）上記反省点及び課題を踏まえた、令和8年度及び9年度の取組

☒ 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成） ☐ 事業費の見直し検討（新たな歳入確保・受益者負担含む） ☐ 業務の効率化・高度化（デジタル化）検討 ☐ 業務の効率化（デジタル化以外の業務手順・手法の見直し）検討 ☐ その他の検討 ☐ 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）	取組説明 事業の在り方、開催方法等について、佐野市子ども会連合会と話し合いながら進めていく。
---	---

仕事の振り返りシート（令和7年度実施分）

事業名	葛生ジュニアリーダースクラブ支援事業	実施計画事業or一般事業	一般事業	市長公約①	該当なし	市長公約②	該当なし	総合戦略	該当なし
		施策横断的な取組との関連性	SDGs		該当あり	コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ	該当なし

1. 基本情報

担当組織	部	教育部	予算中事業名	予算科目	会計	一般	事業計画	単年度繰り返し
	課	生涯学習課			款	10	新規or継続	継続事業
	係	社会教育係			項	4	市単独or国庫補助	市単独事業
政策体系	体系コード	4212	名称	事業期間	目	1	義務or任意	任意的事業
	基本目標	4	豊かな心を育み、学び合うまちづくり		開始年度	S47	実施方法	直営
	政策	2	地域とともに学び育てるまちづくり		終了年度	-	事業分類	支援事業
	施策	1	生活を豊かにする生涯学習の推進					
	基本事業	2	学習成果を活かす取組					

2. 事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

(1) 事業概要

事業概要	葛生ジュニアリーダースクラブへの運営補助をすることにより、団体の事業活動を充実・安定させ、団体の活動により、本市の青少年の健全育成を図る。
------	---

(2) 目的

目的 (本事業によって成し遂げたい状態)	葛生ジュニアリーダースクラブの円滑な運営と財政の健全化を図る。	効果指標	単位	指標の性質	R7	後期計画			
		団体の補助金執行率	%	値が大きいほど良い	100	R8	R9	R10	R11

3. 前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

(1) 活動実績

活動実績 (R7年度に 行った主な活 動内容)	【市の活動】 ・補助金交付 【葛生ジュニアリーダースクラブの活動】 ・子どもを対象とした主催事業の開催（チャレキャン塾） ・市の各種事業に対しての参加協力 等	活動指標	単位	R4	R5	R6	R7
		補助団体数	団体	1	1	1	1
		事業費計	千円	150	150	150	150
		一般財源	千円	150	150	150	150
		特定財源（国・県・他）	千円				
		（うち受益者負担）	千円				

(2) 活動を説明する数値データ及び事業費の推移

(3) 活動による効果

効果説明	団体の活動を安定充実させ、本市における社会教育の推進を図ることができた。	効果指標	単位	R4	R5	R6	R7	過去比較	目標達成
		団体の補助金執行率	%	100	100	100	100	効果は変わらない	○

(4) 事業効果を説明する数値データの推移

(5) 目標達成、効果、費用増減（自動判定）

目標達成	目標達成した指標数	1指標	効果		
	目標未達成だった指標数	0指標	効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった
	効果が上がった指標数	0指標	目標達成 未達成 目標未設定	1指標	
効果 (R7と過去3年平均 の指標値増減)	効果は変わらない指標数	1指標			
	効果が下がった指標数	0指標			
	指標全体	効果は変わらない			
費用（R7とR6の事業費計増減）		費用の増減無し	※ 1 0 万円以上の増減により判断		

4. 次年度に向けた検討

(1) 令和7年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

引き続き補助金の交付と合わせ、適時適切な助言や支援を行う。

(2) 上記反省点及び課題を踏まえた、令和8年度及び9年度の取組

☐ 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成） ☐ 事業費の見直し検討（新たな歳入確保・受益者負担含む） ☐ 業務の効率化・高度化（デジタル化）検討 ☐ 業務の効率化（デジタル化以外の業務手順・手法の見直し）検討 ☐ その他の検討 ☒ 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）	取組説明
---	------

仕事の振り返りシート（令和7年度実施分）

事業名	佐野ユネスコ協会支援事業	実施計画事業or一般事業	一般事業	市長公約①	該当なし	市長公約②	該当なし	総合戦略	該当なし
		施策横断的な取組との関連性	SDGs		該当あり	コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ	該当なし

1. 基本情報

担当組織	部	教育部		予算中事業名	予算科目	会計	一般	事業計画	単年度繰り返し
	課	生涯学習課				款	10	新規or継続	継続事業
	係	社会教育係				項	4	市単独or国県補助	市単独事業
政策体系	体系コード	4212	名称	根拠法令、条例等		目	1	義務or任意	任意の事業
	基本目標	4	豊かな心を育み、学び合うまちづくり		事業期間	開始年度	S48	実施方法	直営
	政策	2	地域とともに学び育てるまちづくり			終了年度	-	事業分類	支援事業
	施策	1	生活を豊かにする生涯学習の推進						
	基本事業	2	学習成果を活かす取組						
				社会教育法(第11条)、佐野ユネスコ協会補助金交付要領					

2. 事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

（1）事業概要

事業概要	佐野ユネスコ協会へ補助金を交付することにより、団体の事業活動を充実・安定させ、団体の活動により本市の社会教育の推進を図る。 佐野ユネスコ協会は、ユネスコ憲章の精神に基づき、教育・科学・文化を通じて国際理解と国際協力を進め、世界の平和に貢献するとともに、あわせて地域社会の向上と会員相互の親睦を図ることを目的として、日々活動している。
------	---

（2）目的

目的 (本事業によって成し遂げたい状態)	佐野ユネスコ協会の円滑な運営と財政の健全化を図る。	効果指標	単位	指標の性質	R7	R8	R9	R10	R11
		団体の補助金執行率	%	値が大きいほど良い	100	100	100	100	100

3. 前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

（1）活動実績

活動実績 (R7年度に行った主な活動内容)	【市の活動】 ・補助金交付 【佐野ユネスコ協会の活動】 ・夏のキャンペーン（平和の民話語り、平和の鐘を鳴らす運動） ・ユネスコ世界遺産移動写真展 ・ユネスコスクールや小中学校・高校との連携 ・世界寺子屋運動（書きそんじハガキ回収運動、募金活動） ・音楽委員会コンサート ・50周年事業式典	活動指標	単位	R4	R5	R6	R7
		補助団体数	団体	1	1	1	1
		事業費計	千円	70	70	70	70
		一般財源	千円	70	70	70	70
		特定財源（国・県・他）	千円				
		（うち受益者負担）	千円				

（2）活動を説明する数値データ及び事業費の推移

（3）活動による効果

効果説明	支援により、団体の目的である、世界の平和への貢献、地域社会の向上と会員相互の親睦の実施を図ることができた。	効果指標	単位	R4	R5	R6	R7	過去比較	目標達成
		団体の補助金執行率	%	100	100	100	100	効果は変わらない	○

（4）事業効果を説明する数値データの推移

（5）目標達成、効果、費用増減（自動判定）

目標達成	目標達成した指標数	1指標	効果		
	目標未達成だった指標数	0指標			
	効果が上がった指標数	0指標	効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった
	効果は変わらない指標数	1指標	達成	1指標	
	効果が下がった指標数	0指標	未達成		
効果 (R7と過去3年平均の指標値増減)	指標全体	効果は変わらない	目標未設定		
費用（R7とR6の事業費計増減）	費用の増減無し	※ 1 0 万円以上の増減により判断			

4. 次年度に向けた検討

（1）令和7年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

引き続き補助金の交付と合わせ、適時適切な助言や支援を行う。

（2）上記反省点及び課題を踏まえた、令和8年度及び9年度の取組

☐ 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成） ☐ 事業費の見直し検討（新たな歳入確保・受益者負担含む） ☐ 業務の効率化・高度化（デジタル化）検討 ☐ 業務の効率化（デジタル化以外の業務手順・手法の見直し）検討 ☐ その他の検討 ☒ 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）	取組説明
---	------

仕事の振り返りシート（令和7年度実施分）

事業名	佐野市原水爆禁止協議会支援事業	実施計画事業or一般事業	一般事業	市長公約①	該当なし	市長公約②	該当なし	総合戦略	該当なし
		施策横断的な取組との関連性	SDGs		該当あり	コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ	該当なし

1. 基本情報

担当組織	部	教育部		予算中事業名	予算科目	会計	一般	事業計画	単年度繰り返し
	課	生涯学習課				款	10	新規or継続	継続事業
	係	社会教育係				項	4	市単独or国県補助	市単独事業
政策体系	体系コード	4212	名称	根拠法令、条例等	事業期間	目	1	義務or任意	任意の事業
	基本目標	4	豊かな心を育み、学び合うまちづくり	社会教育法(第11条)、佐野市原水爆禁止協議会補助金交付要領		開始年度	S47	実施方法	直営
	政策	2	地域とともに学び育てるまちづくり			終了年度	-	事業分類	支援事業
	施策	1	生活を豊かにする生涯学習の推進						
	基本事業	2	学習成果を活かす取組						

2. 事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

（1）事業概要

事業概要	佐野市原水爆禁止協議会へ補助金を交付することにより、団体の事業活動を充実・安定させ、団体の活動により本市の社会教育の推進を図る。 佐野市原水爆禁止協議会は、平和のためすべての国の原水爆禁止並びに被爆者救護の為に努力し援助を行うことを目的として、日々活動している。
------	--

（2）目的

（3）目標値

↓選択して下さい

後期計画

目的 (本事業によって成し遂げたい状態)	佐野市原水爆禁止協議会の円滑な運営と財政の健全化を図る。	効果指標	単位	指標の性質	R7	R8	R9	R10	R11
		団体の補助金執行率	%	値が大きいほど良い	100	100	100	100	100

3. 前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

（1）活動実績

（2）活動を説明する数値データ及び事業費の推移

活動実績 (R7年度に行った主な活動内容)	【市の活動】 ・補助金交付 【佐野市原水爆禁止協議会の活動】 ・被爆者救済カンパ活動 ・原水爆禁止世界大会（広島大会）への派遣 ・広島及び長崎の被爆写真の展示（市民活動スペース）等	活動指標	単位	R4	R5	R6	R7
		補助団体数	団体	1	1	1	1
		事業費計	千円	50	50	50	50
		一般財源	千円	50	50	50	50
		特定財源（国・県・他）	千円				
		（うち受益者負担）	千円				

（3）活動による効果

（4）事業効果を説明する数値データの推移

効果説明	支援により、団体の目的である、平和のためすべての国の原水爆禁止並びに被爆者救護の為に努力・援助の実施を図ることができた。	効果指標	単位	R4	R5	R6	R7	過去比較	目標達成
		団体の補助金執行率	%	100	100	100	100	効果は変わらない	○

（5）目標達成、効果、費用増減（自動判定）

目標達成	目標達成した指標数	1指標
	目標未達成だった指標数	0指標
効果 (R7と過去3年平均の指標値増減)	効果が上がった指標数	0指標
	効果は変わらない指標数	1指標
	効果が下がった指標数	0指標
	指標全体	効果は変わらない
費用（R7とR6の事業費計増減）		費用の増減無し

※ 1 0 万円以上の増減により判断

効果		
効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった
目標達成	達成	1指標
	未達成	
目標未設定		

4. 次年度に向けた検討

（1）令和7年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

引き続き補助金の交付と合わせ、適時適切な助言や支援を行う。

（2）上記反省点及び課題を踏まえた、令和8年度及び9年度の取組

☐ 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成） ☐ 事業費の見直し検討（新たな歳入確保・受益者負担含む） ☐ 業務の効率化・高度化（デジタル化）検討 ☐ 業務の効率化（デジタル化以外の業務手順・手法の見直し）検討 ☐ その他の検討 ☒ 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）	取組説明
---	-----------------

仕事の振り返りシート（令和7年度実施分）

事業名	栃木県家庭教育オピニオンリーダー連合会佐野支部支援事業	実施計画事業or一般事業	一般事業	市長公約①	該当なし	市長公約②	該当なし	総合戦略	該当なし
		施策横断的な取組との関連性	SDGs		該当あり	コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ	該当なし

1. 基本情報

担当組織	部	教育部		予算中事業名	予算科目	会計	一般	事業計画	単年度繰り返し
	課	生涯学習課		栃木県家庭教育オピニオンリーダー連合会佐野支部支援事業		款	10	新規or継続	継続事業
	係	社会教育係				項	4	市単独or国庫補助	市単独事業
政策体系	体系コード	4212	名称	根拠法令、条例等		目	1	義務or任意	任意の事業
	基本目標	4	豊かな心を育み、学び合うまちづくり	社会教育法(第11条)、栃木県家庭教育オピニオンリーダー連合会佐野支部補助金交付要領	事業期間	開始年度	S61	実施方法	直営
	政策	2	地域とともに学び育てるまちづくり			終了年度	-	事業分類	支援事業
	施策	1	生活を豊かにする生涯学習の推進						
	基本事業	2	学習成果を活かす取組						

2. 事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

（1）事業概要

事業概要	栃木県家庭教育オピニオンリーダー連合会佐野支部へ補助金を交付することにより、団体の事業活動を充実・安定させ、団体の活動により本市の社会教育の推進を図る。 栃木県家庭教育オピニオンリーダー連合会佐野支部は、家庭教育振興のために会員相互の研修及び情報交換、子育て支援を行うことを目的として、日々活動している。
------	---

（2）目的

目的 (本事業によって成し遂げたい状態)	栃木県家庭教育オピニオンリーダー連合会佐野支部の円滑な運営と財政の健全化を図る。	効果指標	単位	指標の性質	R7	R8	R9	R10	R11
		団体の補助金執行率	%	値が大きいほど良い	100	100	100	100	100

3. 前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

（1）活動実績

活動実績 (R7年度に行った主な活動内容)	【市の活動】 ・補助金交付	活動指標	単位	R4	R5	R6	R7
		補助団体数	団体	1	1	1	1
	【栃木県家庭教育オピニオンリーダー連合会佐野支部の活動】 ・支部研修会 ・安足ブロック研修会 ・団体の活動拠点での自主活動（保健センターやこども国等でのボランティア活動など） 等						
	※6/12の臨時総会で「佐野市家庭教育オピニオンリーダー連合会」に名称変更、7/16付で「令和7年度佐野市家庭教育オピニオンリーダー連合会運営費補助金」に名称変更した	事業費計	千円	60	60	60	60
		一般財源	千円	60	60	60	60
		特定財源（国・県・他）	千円				
		（うち受益者負担）	千円				

（2）活動を説明する数値データ及び事業費の推移

（3）活動による効果

効果説明	支援により、団体の目的である、家庭教育振興のための会員相互の研修及び情報交換、子育て支援の実施を図ることができた。	（4）事業効果を説明する数値データの推移	効果指標	単位	R4	R5	R6	R7	過去比較	目標達成
			団体の補助金執行率	%	100	100	100	100	効果は変わらない	○

（5）目標達成、効果、費用増減（自動判定）

目標達成	目標達成した指標数	1指標	効果		
	目標未達成だった指標数	0指標	効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった
	効果が上がった指標数	0指標	1指標		
	効果は変わらない指標数	1指標			
	効果が下がった指標数	0指標			
効果 (R7と過去3年平均の指標値増減)	指標全体	効果は変わらない			
費用（R7とR6の事業費計増減）	費用の増減無し	※10万円以上の増減により判断			

4. 次年度に向けた検討

（1）令和7年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

引き続き補助金の交付と合わせ、適時適切な助言や支援を行う。

（2）上記反省点及び課題を踏まえた、令和8年度及び9年度の取組

☐ 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成） ☐ 事業費の見直し検討（新たな歳入確保・受益者負担含む） ☐ 業務の効率化・高度化（デジタル化）検討 ☐ 業務の効率化（デジタル化以外の業務手順・手法の見直し）検討 ☐ その他の検討 ☒ 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）	取組説明
---	-----------------

仕事の振り返りシート（令和7年度実施分）

事業名	楽習出前講座開催事業	実施計画事業or一般事業	実施計画事業	市長公約①	1-①	市長公約②	該当なし	総合戦略	該当なし
		施策横断的な取組との関連性	SDGs		該当あり	コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ	該当あり

1. 基本情報

担当組織	部	教育部	予算中事業名	予算科目	会計	一般	事業計画	単年度繰り返し	
	課	生涯学習課	楽習出前講座開催事業		款	10	新規or継続	継続事業	
	係	生涯学習係			項	4	市単独or国県補助	市単独事業	
政策体系	体系コード	4212	名称	根拠法令、条例等	目	1	義務or任意	任意の事業	
	基本目標	4	豊かな心を育み、学び合うまちづくり	—	事業期間	開始年度	H8	実施方法	直営
	政策	2	地域とともに学び育てるまちづくり			終了年度	—	事業分類	イベント等開催事業
	施策	1	生活を豊かにする生涯学習の推進						
	基本事業	2	学習成果を活かす取組						

2. 事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

（1）事業概要

事業概要	5人以上の団体・グループ等の要望に応じて、市民が自主的に運営する講座に、楽習講師及び市職員を派遣し、講話や実習などを行う。講座内容は、広報さの・市ホームページ・生涯学習メニューパンフレットにより周知する。
------	--

（2）目的

目的 (本事業によって成し遂げたい状態)	学習グループは、学習の機会及び市民と交流する機会を確保することができる。 楽習講師は、学習成果を発表する機会及び市民と交流する機会を確保することができる。	効果指標	単位	指標の性質	R7	R8	R9	R10	R11
		出前講座実施回数	回	値が大きいほど良い	130	130	135	140	145
		出前講座登録メニュー数	講座	値が大きいほど良い	235	205	210	215	220

3. 前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

（1）活動実績

活動実績 (R7年度に行った主な活動内容)	●楽習講師登録者数：111 【個人】86人【団体】25団体 ●楽習出前講座登録数：197 【楽習講師編】154講座【行政編】43講座 ●楽習出前講座実施状況：124 【楽習講師編】71回（受講者数：1,329人） 【行政編】53回（受講者数：767人） ●実施された主な講座の内容：消費生活講座、紙バンドで編むかごとバッグ、民話語り、防災のはなし等	活動指標	単位	R4	R5	R6	R7
		出前講座受講者数	人	1,677	2,028	1,990	2,096
		出前講座開催数	回	87	114	126	124
		楽習講師登録者数	人	130	126	107	111
		事業費計	千円	57	48	49	35
		一般財源	千円	57	48	49	35
		特定財源（国・県・他）	千円	0	0	0	0
		（うち受益者負担）	千円	0	0	0	0

（2）活動を説明する数値データ及び事業費の推移

（3）活動による効果

効果説明	出前講座実施回数は増加傾向にある。出前講座登録メニュー数は、減少傾向にある。	効果指標	単位	R4	R5	R6	R7	過去比較	目標達成
		出前講座実施回数	回	87	114	126	124	効果が上がった	×
		出前講座登録メニュー数	講座	218	216	190	197	効果が下がった	×

（4）事業効果を説明する数値データの推移

（5）目標達成、効果、費用増減（自動判定）

目標達成	目標達成した指標数	0指標	効果		
	目標未達成だった指標数	2指標	効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった
効果 (R7と過去3年平均の指標値増減)	効果が上がった指標数	1指標	目標達成 達成 未達成 目標未設定		
	効果は変わらない指標数	0指標			
	効果が下がった指標数	1指標			1指標
	指標全体	効果は変わらない			
費用（R7とR6の事業費計増減）		費用の増減無し	※ 1 0万円以上の増減により判断		

4. 次年度に向けた検討

（1）令和7年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

魅力あるボランティア活動として定着するよう、楽習講師の活動の場を広げる必要がある。そのため、出前講座の活用事例の紹介や楽習出前講座の広報を充実させる。

（2）上記反省点及び課題を踏まえた、令和8年度及び9年度の取組

☐ 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成） ☐ 事業費の見直し検討（新たな歳入確保・受益者負担含む） ☐ 業務の効率化・高度化（デジタル化）検討 ☐ 業務の効率化（デジタル化以外の業務手順・手法の見直し）検討 ☐ その他の検討 ☒ 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）	取組説明 広報やホームページ等で出前講座を周知することで、登録講師数・講座利用者数の増加を図るとともに、学習のニーズを把握し新規の利用を促す。また、オンライン講座については、要望があれば対応していく。
---	---

仕事の振り返りシート（令和7年度実施分）

事業名	生涯楽習フォーラム開催事業	実施計画事業or一般事業	一般事業	市長公約①	1-①	市長公約②	該当なし	総合戦略	該当なし
		施策横断的な取組との関連性	SDGs		該当あり	コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ	該当あり

1. 基本情報

担当組織	部	教育部	予算中事業名	予算科目	会計	一般	事業計画	単年度のみ
	課	生涯学習課			款	10	新規or継続	継続事業
	係	生涯学習係			項	4	市単独or国庫補助	市単独事業
政策体系	体系コード	4212	名称		目	2	義務or任意	任意的事業
	基本目標	4	豊かな心を育み、学び合うまちづくり	事業期間	開始年度	H29	実施方法	直営
	政策	2	地域とともに学び育てるまちづくり		終了年度	－	事業分類	イベント等開催事業
	施策	1	生活を豊かにする生涯学習の推進					
	基本事業	2	学習成果を活かす取組					

2. 事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

（1）事業概要

事業概要	生涯学習社会の実現を目指し、市民が一堂に会して生涯学習のまちづくりや人づくりについて考え、市民の生涯学習活動へのきっかけづくりにするとともに、楽習成果の発表の場を提供するイベントの開催。
------	---

（2）目的

目的 (本事業によって成し遂げたい状態)	市民の生涯学習活動のきっかけづくりを提供し、参加・体験することにより、生きがい探しや交流の輪を広げる。学習成果の発表により新たな活動につなげ、地域での学びを活かした活動を促進する。	効果指標	単位	指標の性質	R7	R8	R9	R10	R11
		楽習講師登録者数	人	値が大きいほど良い	170	115	120	125	130
		楽習講師が社会へ還元した件数	件	値が大きいほど良い	340	180	190	200	210

3. 前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

（1）活動実績

活動実績 (R7年度に行った主な活動内容)	実行委員会を組織して「佐野市生涯楽習フォーラム2025『佐野楽』」を開催。 日時：令和8年3月7日(土)、8日(日) 場所：佐野市田沼中央公民館 内容：1日 開会式典、基調講演、対談、分科会 両日 楽習フェア、静のアート作品展	活動指標	単位	R4	R5	R6	R7
		延べ参加者数	人	1,000	2,000	1,700	1,700
		参加して良かったとする割合	%	86	83	82	86
		事業費計	千円	290	278	278	272
		一般財源	千円	290	278	278	272
		特定財源（国・県・他）	千円	0	0	0	0
		（うち受益者負担）	千円	0	0	0	0

（2）活動を説明する数値データ及び事業費の推移

（3）活動による効果

効果説明	楽習成果発表の場を設けているものの、楽習講師登録者数、楽習講師が社会へ還元した件数ともに減少傾向である。	効果指標	単位	R4	R5	R6	R7	過去比較	目標達成
		楽習講師登録者数	人	130	126	107	111	効果が下がった	×
		楽習講師が社会へ還元した件数	件	159	184	173	167	効果が下がった	×

（4）事業効果を説明する数値データの推移

（5）目標達成、効果、費用増減（自動判定）

目標達成	目標達成した指標数	0指標	効果		
	目標未達成だった指標数	2指標	効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった
効果 (R7と過去3年平均の指標値増減)	効果が上がった指標数	0指標	目標達成	達成	
	効果は変わらない指標数	0指標		未達成	2指標
	効果が下がった指標数	2指標	目標未設定		
	指標全体	効果が下がった			
費用（R7とR6の事業費計増減）		費用の増減無し	※ 1 0 万円以上の増減により判断		

4. 次年度に向けた検討

（1）令和7年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

幅広い年齢層の方、より多くの方に参加してもらうため、社会情勢に即した内容が求められる。

（2）上記反省点及び課題を踏まえた、令和8年度及び9年度の取組

☐ 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成） ☐ 事業費の見直し検討（新たな歳入確保・受益者負担含む） ☐ 業務の効率化・高度化（デジタル化）検討 ☐ 業務の効率化（デジタル化以外の業務手順・手法の見直し）検討 ☐ その他の検討 ☒ 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）	取組説明 講演会等を魅力的な内容にするとともに、周知の方法を工夫し、より多くの方の参加を促す。また、楽習成果の発表の場を提供することにより、生涯学習活動の促進を図る。
---	--

仕事の振り返りシート（令和7年度実施分）

事業名	佐野市の青少年とともに育つ市民の会支援事業	実施計画事業or一般事業	一般事業	市長公約①	該当なし	市長公約②	該当なし	総合戦略	該当なし
		施策横断的な取組との関連性	SDGs		該当あり	コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ	該当なし

1. 基本情報

担当組織	部	教育部		予算中事業名	予算科目	会計	一般	事業計画	単年度繰り返し
	課	生涯学習課		佐野市の青少年とともに育つ		款	10	新規or継続	継続事業
	係	社会教育係		市民の会支援事業		項	4	市単独or国県補助	市単独事業
政策体系	体系コード	4213	名称	根拠法令、条例等	事業期間	目	1	義務or任意	任意的事業
	基本目標	4	豊かな心を育み、学び合うまちづくり			開始年度	H23	実施方法	直営
	政策	2	地域とともに学び育てるまちづくり			終了年度		事業分類	支援事業
	施策	1	生活を豊かにする生涯学習の推進			社会教育法(第11条)、佐野市の青少年とともに育つ市民の会補助金交付要領			
	基本事業	3	青少年の健全育成						

2. 事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

(1) 事業概要

事業概要	佐野市の青少年とともに育つ市民の会へ補助金を交付することにより、団体の事業活動を充実・安定させ、団体の活動により本市の社会教育の推進を図る。 佐野市の青少年とともに育つ市民の会は、青少年の育成に市民すべてが関心をもち、市の施策や青少年関係団体・機関と連携を図りながら市民総ぐるみの運動を展開し、次代を担う青少年の健全な育成を図ることを目的として、日々活動している。
------	---

(2) 目的

目的 (本事業によって成し 遂げたい 状態)	佐野市の青少年とともに育つ市民の会の円滑な運営と財政の健全 化を図る。	効果指標	単位	指標の性質	R7	R8	R9	R10	R11
		団体の補助金執行率	%	値が大きいほど良い	100	100	100	100	100

3. 前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

(1) 活動実績

活動実績 (R7年度に行った主な活動内容)	【市の活動】 ・補助金交付 【佐野市の青少年とともに育つ市民の会の活動】 ・理事会、総会、研修会の開催 ・市民の会だよりの発行 ・心豊かな青少年を育む市民のつどい開催 ・小中義務教育学校への親子学び合い事業「ネット時代の歩き方講習会」の支援等	活動指標	単位	R4	R5	R6	R7
		補助団体数	団体	1	1	1	1
		事業費計	千円	25	25	25	25
		一般財源	千円	25	25	25	25
		特定財源（国・県・他）	千円				
		（うち受益者負担）	千円				

(2) 活動を説明する数値データ及び事業費の推移

(3) 活動による効果

効果説明	支援により、団体の目的である、地域全体での次代を担う青少年の健全育成を図ることをができた。	効果指標	単位	R4	R5	R6	R7	過去比較	目標達成
		団体の補助金執行率	%	100	100	100	100	効果は変わらない	○

(4) 事業効果を説明する数値データの推移

(5) 目標達成、効果、費用増減（自動判定）

目標達成	目標達成した指標数	1指標	効果		
	目標未達成だった指標数	0指標			
	効果が上がった指標数	0指標	効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった
	効果は変わらない指標数	1指標	達成	1指標	
	効果が下がった指標数	0指標	未達成		
効果 (R7と過去3年平均の指標値増減)	指標全体	効果は変わらない	目標未設定		
費用（R7とR6の事業費計増減）	費用の増減無し	※ 1 0 万円以上の増減により判断			

4. 次年度に向けた検討

(1) 令和7年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

引き続き補助金の交付と合わせ、適時適切な助言や支援を行う。

(2) 上記反省点及び課題を踏まえた、令和8年度及び9年度の取組

☐ 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成） ☐ 事業費の見直し検討（新たな歳入確保・受益者負担含む） ☐ 業務の効率化・高度化（デジタル化）検討 ☐ 業務の効率化（デジタル化以外の業務手順・手法の見直し）検討 ☐ その他の検討 ☒ 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）	取組説明
---	------

仕事の振り返りシート（令和7年度実施分）

事業名	学童野球・ソフトボール振興会支援事業	実施計画事業or一般事業	一般事業		市長公約	該当なし	総合戦略	該当なし
		施策横断的な取組との関連性	SDGs	該当あり	コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ	該当なし

1．基本情報

担当組織	部	教育部		予算中事業名	予算科目	会計	一般	事業計画	単年度繰り返し	
	課	少年指導センター				学童野球・ソフトボール振興	款	10	新規or継続	継続事業
	係					会支援事業	項	4	市単独or国県補助	市単独事業
政策体系	体系コード	4213	名称	根拠法令、条例等		目	6	義務or任意	任意的事業	
	基本目標	4	豊かな心を育み、学び合うまちづくり		事業期間	開始年度	S60	実施方法	直営	
	政策	2	地域とともに学び育てるまちづくり			終了年度	R7	事業分類	支援事業	
	施策	1	生活を豊かにする生涯学習の推進							
	基本事業	3	青少年の健全育成							
				社会教育法（第11条） 佐野市社会教育関係団体 補助金交付要領						

2．事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

（1）事業概要

事業概要	佐野市学童野球・ソフトボール振興会を通し青少年の健全育成を促進するため、補助金を交付し会の円滑な運営が図れるよう支援を行う。
------	--

（2）目的

目的 （本事業によって成し遂げたい状態）	佐野市学童野球・ソフトボール振興会の円滑な運営と財政の健全化を図る。	効果指標	単位	指標の性質	R7	R8	R9	R10	R11
		団体の補助金執行率	%	値が大きいほど良い	0				

3．前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

（1）活動実績

活動実績 （R7年度に行った主な活動内容）	活動実績なし	活動指標	単位	R4	R5	R6	R7
		補助団体数	団体	1	1	1	0
		事業費計	千円	80	80	0	0
		一般財源	千円	80	80	0	0
		特定財源（国・県・他）	千円				
		（うち受益者負担）	千円				

（3）活動による効果

効果説明	学童ソフトボールチームの減少により、令和6年度から会の活動を行わなかったため、補助金の交付も行っていない。	効果指標	単位	R4	R5	R6	R7	過去比較	目標達成
		団体の補助金執行率	%	100	100	0	0	効果が下がった	○

（5）目標達成、効果、費用増減（自動判定）

目標達成	目標達成した指標数	1指標	効果		
	目標未達成だった指標数	0指標			
効果 （R7と過去3年平均の指標値増減）	効果が上がった指標数	0指標	目標達成	達成	効果が上がった
	効果は変わらない指標数	0指標		未達成	効果は変わらない
	効果が下がった指標数	1指標			効果が下がった
	指標全体	効果が下がった		目標未設定	
費用（R7とR6の事業費計増減）		費用の増減無し	※ 1 0 万円以上の増減により判断		

4．次年度に向けた検討

（1）令和7年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

チームの解散に伴い、令和6年度から補助金の交付を行っていない。

（2）上記反省点及び課題を踏まえた、令和8年度及び9年度の取組

☒ 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成） ☐ 事業費の見直し検討（新たな歳入確保・受益者負担含む） ☐ 業務の効率化・高度化（デジタル化）検討 ☐ 業務の効率化（デジタル化以外の業務手順・手法の見直し）検討 ☐ その他の検討 ☐ 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）	取組説明 令和7年度をもって、事業を終了する。
---	--------------------------------

仕事の振り返りシート（令和7年度実施分）

事業名	安足地区青少年育成連絡協議会参画事業	実施計画事業or一般事業	一般事業	市長公約	該当なし	総合戦略	該当なし
		施策横断的な取組との関連性	SDGs	該当あり	コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ

1．基本情報

担当組織	部	教育部	予算中事業名	予算科目	会計	一般	事業計画	単年度繰り返し
	課	少年指導センター			款	10	新規or継続	継続事業
	係				項	4	市単独or国県補助	市単独事業
政策体系	体系コード	4213	名称	根拠法令、条例等	目	6	義務or任意	任意的事業
	基本目標	4	豊かな心を育み、学び合うまちづくり	社会教育法（第11条） 佐野市社会教育関係団体 補助金交付要領	開始年度	S49	実施方法	直営
	政策	2	地域とともに学び育てるまちづくり		終了年度		事業分類	参画事業
	施策	1	生活を豊かにする生涯学習の推進					
	基本事業	3	青少年の健全育成					

2．事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

（1）事業概要

事業概要	安足地区青少年育成連絡協議会へ負担金を支出する。
------	--------------------------

（2）目的

目的 (本事業によって成し 上げたい状態)	団体の実施する研修会への参加を通して、青少年の実態や健全育成活動についての情報収集を行う。 また、団体と協力し、佐野市内の携帯電話販売店や図書等販売店に対して、立入調査を実施する。	効果指標	単位	指標の性質	R7	R8	R9	R10	R11
		研修会等の参加回数	回	値が大きいほど良い	5	5	5	5	5

3．前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

（1）活動実績

活動実績 (R7年度に 行った主な活 動内容)	【市の活動】 ・負担金の支出 ・総会、理事会、研修会への出席（3回） ・立入調査への協力（2回） 【安足地区青少年育成連絡協議会の活動】 ・総会、理事会の開催 ・研修会、立入調査の実施	活動指標	単位	R4	R5	R6	R7
		研修会等への参加回数	回	5	5	5	5
		事業費計	千円	32	32	32	32
		一般財源	千円	32	32	32	32
		特定財源（国・県・他）	千円				
		（うち受益者負担）	千円				

（3）活動による効果

効果説明	団体の事業への参加を通して、青少年の実態や健全育成活動についての情報収集を行うことができた。 また、佐野市内の携帯電話販売店や図書等販売店に対して、立入調査を実施することができた。	効果指標	単位	R4	R5	R6	R7	過去比較	目標達成
		研修会等の参加回数	回	5	5	5	5	効果は変わらない	○

（5）目標達成、効果、費用増減（自動判定）

目標達成	目標達成した指標数	1指標			効果		
	目標未達成だった指標数	0指標			効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった
効果 (R7と過去3年平均 の指標値増減)	効果が上がった指標数	0指標	目標達成	達成	1指標		
	効果は変わらない指標数	1指標		未達成			
	効果が下がった指標数	0指標		目標未設定			
	指標全体	効果は変わらない					
費用（R7とR6の事業費計増減）		費用の増減無し	※ 1 0 万円以上の増減により判断				

4．次年度に向けた検討

（1）令和7年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

引き続き、安足地区青少年育成連絡協議会に参画する。

（2）上記反省点及び課題を踏まえた、令和8年度及び9年度の取組

☐ 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成） ☐ 事業費の見直し検討（新たな歳入確保・受益者負担含む） ☐ 業務の効率化・高度化（デジタル化）検討 ☐ 業務の効率化（デジタル化以外の業務手順・手法の見直し）検討 ☐ その他の検討 ☒ 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）	取組説明
---	------

仕事の振り返りシート（令和7年度実施分）

事業名	青少年相談事業	実施計画事業or一般事業	一般事業	市長公約	該当なし	総合戦略	該当なし
		施策横断的な取組との関連性	SDGs	該当あり	コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ

1. 基本情報

担当組織	部	教育部		予算中事業名	予算科目	会計	一般	事業計画	単年度繰り返し
	課	少年指導センター		青少年相談事業		款	10	新規or継続	継続事業
	係					項	4	市単独or国庫補助	市単独事業
政策体系	体系コード	4213	名称	根拠法令、条例等	事業期間	目	6	義務or任意	任意的事業
	基本目標	4	豊かな心を育み、学び合うまちづくり	少年指導センター条例施行規則		開始年度	S49	実施方法	直営
	政策	2	地域とともに学び育てるまちづくり			終了年度		事業分類	相談事業
	施策	1	生活を豊かにする生涯学習の推進						
	基本事業	3	青少年の健全育成						

2. 事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

（1）事業概要

事業概要	青少年やその保護者を対象に、電話や面接による相談業務を実施する。
------	----------------------------------

（2）目的

目的 （本事業によって成し遂げたい状態）	青少年本人や家族などから相談を受け、その解決策を模索し、悩みごとの解決を図る。	（3）目標値	↓選択して下さい		後期計画				
		効果指標	単位	指標の性質	R7	R8	R9	R10	R11
		相談の受理件数	回	値が大きいほど良い	9	5	5	5	5

3. 前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

（1）活動実績

活動実績 （R7年度に行った主な活動内容）	保護者による相談を3件受理し、助言指導を行った。	活動指標	単位	R4	R5	R6	R7
		相談の受理件数	回	2	5	5	3
		事業費計	千円	17	16	20	0
		一般財源	千円	17	16	20	0
		特定財源（国・県・他）	千円				
		（うち受益者負担）	千円				

（2）活動を説明する数値データ及び事業費の推移

（3）活動による効果

効果説明	相談に対して、助言指導を行ない、必要に応じて関係機関を案内する等の対応を行った。	効果指標	単位	R4	R5	R6	R7	過去比較	目標達成
		相談の受理件数	回	2	5	5	3	効果が下がった	×

（5）目標達成、効果、費用増減（自動判定）

目標達成	目標達成した指標数	0指標	効果		
	目標未達成だった指標数	1指標	効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった
効果 （R7と過去3年平均の指標値増減）	効果が上がった指標数	0指標	目標達成	達成	
	効果は変わらない指標数	0指標		未達成	1指標
	効果が下がった指標数	1指標		目標未設定	
	指標全体	効果が下がった			
費用（R7とR6の事業費計増減）	費用の増減無し	※ 1 0 万円以上の増減により判断			

4. 次年度に向けた検討

（1）令和7年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

引き続き、チラシや、広報さでの相談窓口の周知を行い、必要に応じて、青少年やその保護者への相談を実施する。
--

（2）上記反省点及び課題を踏まえた、令和8年度及び9年度の取組

☐ 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成） ☐ 事業費の見直し検討（新たな歳入確保・受益者負担含む） ☐ 業務の効率化・高度化（デジタル化）検討 ☐ 業務の効率化（デジタル化以外の業務手順・手法の見直し）検討 ☐ その他の検討 ☒ 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）	取組説明
---	------

仕事の振り返りシート（令和7年度実施分）

事業名	二十歳のつどい開催事業	実施計画事業or一般事業	一般事業	市長公約①	該当なし	市長公約②	該当なし	総合戦略	該当なし
		施策横断的な取組との関連性	SDGs		該当あり	コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ	該当なし

1. 基本情報

担当組織	部	教育部		予算中事業名	予算科目	会計	一般	事業計画	単年度繰り返し	
	課	生涯学習課				二十歳のつどい開催事業	款	10	新規or継続	継続事業
	係	社会教育係					項	4	市単独or国庫補助	市単独事業
政策体系	体系コード	4213	名称	根拠法令、条例等		目	1	義務or任意	任意の事業	
	基本目標	4	豊かな心を育み、学び合うまちづくり		事業期間	開始年度	S23	実施方法	直営	
	政策	2	地域とともに学び育てるまちづくり			終了年度	-	事業分類	イベント等開催事業	
	施策	1	生活を豊かにする生涯学習の推進							
	基本事業	3	青少年の健全育成							
				社会教育法（第5条）						

2. 事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

（1）事業概要

事業概要	二十歳のつどい対象者に対し、式典の開催、記念品配布、およびアトラクション終了後の記念撮影を実施する。
------	--

（2）目的

目的 (本事業によって成し遂げたい状態)	二十歳のつどいの式典を実施し、祝い励ます事により、自己の責任を自覚し、社会的義務を意識付ける。	効果指標	単位	指標の性質	R7	R8	R9	R10	R11
		二十歳のつどい参加率	%	値が大きいほど良い	80	80	80	80	80

3. 前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

（1）活動実績

活動実績 （R7年度に行った主な活動内容）	令和8年1月11日開催 田沼会場（1・2部）：田沼中央公民館 葛生会場（1・2部）：葛生あくとプラザ 記念品の配布、記念撮影等を行なった。	活動指標	単位	R4	R5	R6	R7
		二十歳のつどい参加率	%	80	81	78	75
		事業費計	千円	749	782	2,927	742
		一般財源	千円	749	782	2,927	742
		特定財源（国・県・他）	千円				
		（うち受益者負担）	千円				

（2）活動を説明する数値データ及び事業費の推移

（3）活動による効果

効果説明	二十歳のつどいを開催し、対象者のうち75%の方に出席いただいた。	（4）事業効果を説明する数値データの推移	効果指標	単位	R4	R5	R6	R7	過去比較	目標達成
			二十歳のつどい参加率	%	80	81	78	75	効果が下がった	×

（5）目標達成、効果、費用増減（自動判定）

目標達成	目標達成した指標数	0指標
	目標未達成だった指標数	1指標
効果 （R7と過去3年平均の指標値増減）	効果が上がった指標数	0指標
	効果は変わらない指標数	0指標
	効果が下がった指標数	1指標
	指標全体	効果が下がった
費用（R7とR6の事業費計増減）		費用は下がった

※ 1 0 万円以上の増減により判断

		効果		
		効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった
目標達成	達成			
	未達成			1指標
目標未設定				

4. 次年度に向けた検討

（1）令和7年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

文化会館の改修工事に伴い、令和7年度は、田沼中央公民館と葛生あくとプラザの2会場2部制で実施した。

（2）上記反省点及び課題を踏まえた、令和8年度及び9年度の取組

☐ 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成） ☐ 事業費の見直し検討（新たな歳入確保・受益者負担含む） ☐ 業務の効率化・高度化（デジタル化）検討 ☐ 業務の効率化（デジタル化以外の業務手順・手法の見直し）検討 ☐ その他の検討 ☒ 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）	取組説明
---	------

仕事の振り返りシート（令和7年度実施分）

事業名	佐野・芦屋青少年交流事業	実施計画事業or一般事業	実施計画事業	市長公約①	該当なし	市長公約②	該当なし	総合戦略	該当なし
		施策横断的な取組との関連性	SDGs		該当あり	コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ	該当なし

1. 基本情報

担当組織	部	教育部		予算中事業名	予算科目	会計	一般	事業計画	単年度繰り返し
	課	生涯学習課				款	10	新規or継続	継続事業
	係	社会教育係				項	4	市単独or国県補助	市単独事業
政策体系	体系コード	4213	名称	根拠法令、条例等		目	1	義務or任意	任意の事業
	基本目標	4	豊かな心を育み、学び合うまちづくり		事業期間	開始年度	H6	実施方法	直営
	政策	2	地域とともに学び育てるまちづくり			終了年度		事業分類	教育・指導事業
	施策	1	生活を豊かにする生涯学習の推進						
	基本事業	3	青少年の健全育成						
				社会教育法 (第3条、第5条)					

2. 事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

(1) 事業概要

事業概要	親善都市である福岡県芦屋町と佐野市（室町時代から「西の芦屋・東の天明」といわれ並び称される茶の湯釜の産地）の小・中学校生及び義務教育学校生が、相互訪問による宿泊研修等を通して交流を図り、お互いの文化を理解し、両市町の交流を促進する。
------	--

(2) 目的

目的 (本事業によって成し遂げたい状態)	親善都市である福岡県芦屋町と佐野市の小・中学校生及び義務教育学校生が、相互訪問による宿泊研修等を通して交流を図り、お互いの郷土の文化を理解し、豊かな心を育み、自己管理能力の向上を図る。	効果指標	単位	指標の性質	R7	R8	R9	R10	R11
		活動を通し、自己管理能力が向上した参加者	%	値が大きいほど良い	100	100	100	100	100

3. 前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

(1) 活動実績

活動実績 (R7年度に行った主な活動内容)	会場：佐野市内 ほか 参加者：16人 事前研修：3回 本研修：8月3日～8月5日（2泊3日） 活動内容：鋳物印鑑づくり、こどもサミット 海遊び、アクアシアン 等	活動指標	単位	R4	R5	R6	R7
		参加者数	人	0	12	13	16
		事業費計	千円	0	98	695	725
		一般財源	千円	0	98	0	0
		特定財源（国・県・他）	千円			695	725
		（うち受益者負担）	千円				

(2) 活動を説明する数値データ及び事業費の推移

(3) 活動による効果

効果説明	鋳物印鑑づくり、こどもサミット、海遊び、アクアシアンなどの交流プログラムを通し、参加者の自己管理能力の向上が見られた。	効果指標	単位	R4	R5	R6	R7	過去比較	目標達成
		活動を通し、自己管理能力が向上した参加者	%	0	0	100	100	効果が上がった	○

(4) 事業効果を説明する数値データの推移

(5) 目標達成、効果、費用増減（自動判定）

目標達成	目標達成した指標数	1指標	効果	効果				
	目標未達成だった指標数	0指標		効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった		
効果 (R7と過去3年平均の指標値増減)	効果が上がった指標数	1指標		目標達成 達成 未達成 目標未設定	1指標			
	効果は変わらない指標数	0指標						
	効果が下がった指標数	0指標						
	指標全体					効果が上がった		
	費用（R7とR6の事業費計増減）					費用の増減無し	※ 10万円以上の増減により判断	

※ 1 0 万円以上の増減により判断

4. 次年度に向けた検討

(1) 令和7年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

令和7年度は芦屋町を開催地として実施した。佐野市開催の場合には熱中症対策を取りつつ、佐野らしさを体験できる交流プログラムの検討が必要である。
--

(2) 上記反省点及び課題を踏まえた、令和8年度及び9年度の取組

☐ 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成） ☐ 事業費の見直し検討（新たな歳入確保・受益者負担含む） ☐ 業務の効率化・高度化（デジタル化）検討 ☐ 業務の効率化（デジタル化以外の業務手順・手法の見直し）検討 ☐ その他の検討 ☒ 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）	取組説明
---	------

仕事の振り返りシート（令和7年度実施分）

事業名	佐野市 P T A 連合会支援事業	実施計画事業or一般事業	一般事業	市長公約①	該当なし	市長公約②	該当なし	総合戦略	該当なし
		施策横断的な取組との関連性	SDGs		該当あり	コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ	該当なし

1. 基本情報

担当組織	部	教育部	予算中事業名	予算科目	会計	一般	事業計画	単年度繰り返し
	課	生涯学習課	佐野市小中義務教育学校 P T A 連絡協議会支援事業		款	10	新規or継続	継続事業
	係	社会教育係			項	4	市単独or国庫補助	市単独事業
政策体系	体系コード	4213	名称	根拠法令、条例等	目	1	義務or任意	任意的事業
	基本目標	4	豊かな心を育み、学び合うまちづくり	事業期間	開始年度	S52	実施方法	直営
	政策	2	地域とともに学び育てるまちづくり		終了年度	-	事業分類	支援事業
	施策	1	生活を豊かにする生涯学習の推進					
	基本事業	3	青少年の健全育成					

2. 事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

（1）事業概要

事業概要	佐野市 P T A 連合会へ補助金を交付することにより、団体の事業活動を充実・安定させ、団体の活動により本市の社会教育の推進を図る。佐野市 P T A 連合会は、市内の P T A 相互の連絡調整を図り、小学校、中学校および義務教育学校における P T A 活動を通じて、青少年の健全育成と福祉の増進を図り、学校教育・家庭教育・社会教育の充実振興に寄与することを目的として、日々活動している。
------	--

（2）目的

目的 (本事業によって成し遂げたい状態)	佐野市 P T A 連合会の円滑な運営と財政の健全化を図る。	（3）目標値	↓選択して下さい		後期計画			
		効果指標	単位	指標の性質	R7	R8	R9	R10
		団体の補助金執行率	%	値が大きいほど良い	100	100	100	100

3. 前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

（1）活動実績

活動実績 (R7年度に行った主な活動内容)	【市の活動】 ・補助金交付 【佐野市 P T A 連合会の活動】 ・総会、役員会の開催 ・ P T A 研修会、 P T A 研修会（キャリア教育）の開催 ・教育フォーラムの開催 等	活動指標	単位	R4	R5	R6	R7
		補助団体数	団体	1	1	1	1
		事業費計	千円	0	0	250	250
		一般財源	千円	0	0	250	250
		特定財源（国・県・他）	千円				

（3）活動による効果

効果説明	支援により、団体の目的である、学校教育・家庭教育・社会教育の充実振興への寄与を図ることをができた。 ※令和4・5年度は、新型コロナウイルス感染症の影響等により開催できない事業があり補助金が不要となったため、変更交付決定により補助金を返納してもらった。	効果指標	単位	R4	R5	R6	R7	過去比較	目標達成
		団体の補助金執行率	%	0	0	100	100	効果が上がった	○

（5）目標達成、効果、費用増減（自動判定）

目標達成	目標達成した指標数	1指標	効果		
	目標未達成だった指標数	0指標	効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった
	効果が上がった指標数	1指標	1指標		
	効果は変わらない指標数	0指標			
	効果が下がった指標数	0指標	目標未設定		

費用（R7とR6の事業費計増減）	費用の増減無し	※10万円以上の増減により判断
------------------	---------	-----------------

4. 次年度に向けた検討

（1）令和7年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

引き続き補助金の交付と合わせ、適時適切な助言や支援を行う。

（2）上記反省点及び課題を踏まえた、令和8年度及び9年度の取組

☐ 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成） ☐ 事業費の見直し検討（新たな歳入確保・受益者負担含む） ☐ 業務の効率化・高度化（デジタル化）検討 ☐ 業務の効率化（デジタル化以外の業務手順・手法の見直し）検討 ☐ その他の検討 ☒ 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）	取組説明

仕事の振り返りシート（令和7年度実施分）

事業名	青少年活動育成促進事業	実施計画事業or一般事業	実施計画事項	市長公約①	2-③	市長公約②	該当なし	総合戦略	該当なし
		施策横断的な取組との関連性	SDGs		該当あり	コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ	該当あり

1. 基本情報

担当組織	部	教育部	予算中事業名	予算科目	会計	一般	事業計画	単年度繰り返し	
	課	生涯学習課	青少年活動育成促進事業		款	10	新規or継続	継続事業	
	係	社会教育係			項	4	市単独or国県補助	市単独事業	
政策体系	体系コード	4213	名称	根拠法令、条例等	目	1	義務or任意	任意の事業	
	基本目標	4	豊かな心を育み、学び合うまちづくり	社会教育法（第5条の1 2）	事業期間	開始年度	平成14年	実施方法	直営
	政策	2	地域とともに学び育てるまちづくり			終了年度		事業分類	教育・指導事業
	施策	1	生活を豊かにする生涯学習の推進						
	基本事業	3	青少年の健全育成						

2. 事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

（1）事業概要

事業概要	青少年たちが、話し合いや体験活動を通して交流し、成長していけるよう、青少年同士の連携を支援し、青少年活動の推進、活性化を図る。
------	---

（2）目的

目的 （本事業によって成し遂げたい状態）	ボランティア活動への理解と関心を深め、地域活動への意欲を高める。	効果指標	単位	指標の性質	R7	後期計画			
		ボランティアへの理解を深めた参加者の割合	%	値が大きいほど良い	100	R8	R9	R10	R11

3. 前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

（1）活動実績

活動実績 （R7年度に行った主な活動内容）	青少年ボランティア研修会（全6回） 研修外ボランティア活動（全5回） 期日：令和7年4月～令和8年2月 会場：こどもの国 ほか 研修会及び研修外ボランティア活動の延べ参加者数：221人	活動指標	単位	R4	R5	R6	R7
		本研修開催数	回	6	6	6	6
		事業費計	千円	52	52	59	65
		一般財源	千円	52	52	59	65
		特定財源（国・県・他）	千円				
		（うち受益者負担）	千円				

（2）活動を説明する数値データ及び事業費の推移

（3）活動による効果

効果説明	市主催のイベント等においてボランティア活動を体験することにより、青少年が、ボランティア活動への理解を深めた。	効果指標	単位	R4	R5	R6	R7	過去比較	目標達成
		ボランティアへの理解を深めた参加者の割合	%	100	100	97	100	効果が上がった	○

（4）事業効果を説明する数値データの推移

（5）目標達成、効果、費用増減（自動判定）

目標達成	目標達成した指標数	1指標
	目標未達成だった指標数	0指標
効果 （R7と過去3年平均の指標値増減）	効果が上がった指標数	1指標
	効果は変わらない指標数	0指標
	効果が下がった指標数	0指標
	指標全体	効果が上がった
費用（R7とR6の事業費計増減）		費用の増減無し

※ 1 0 万円以上の増減により判断

		効果		
		効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった
目標達成	達成	1指標		
	未達成			
目標未設定				

4. 次年度に向けた検討

（1）令和7年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

近年の温暖化を考慮し、酷暑の時期の活動時には飲料水の配布を行った。体調不良者も出なかったことから、この対策を継続する。検討課題はなし。

（2）上記反省点及び課題を踏まえた、令和8年度及び9年度の取組

☐ 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成） ☐ 事業費の見直し検討（新たな歳入確保・受益者負担含む） ☐ 業務の効率化・高度化（デジタル化）検討 ☐ 業務の効率化（デジタル化以外の業務手順・手法の見直し）検討 ☐ その他の検討 ☒ 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）	取組説明
---	------

仕事の振り返りシート（令和7年度実施分）

事業名	二十歳のつどい企画運営事業	実施計画事業or一般事業	一般事業	市長公約①	該当なし	市長公約②	該当なし	総合戦略	該当なし
		施策横断的な取組との関連性	SDGs		該当あり	コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ	該当なし

1. 基本情報

担当組織	部	教育部		予算中事業名	予算 科目	会計	一般	事業計画	単年度繰り返し
	課	生涯学習課				款	10	新規or継続	継続事業
	係	社会教育係				項	4	市単独or国庫補助	市単独事業
政策体系	体系コード	4213	名称	根拠法令、条例等		目	1	義務or任意	任意の事業
	基本目標	4	豊かな心を育み、学び合うまちづくり		事業 期間	開始年度	H9	実施方法	直営
	政策	2	地域とともに学び育てるまちづくり			終了年度	-	事業分類	支援事業
	施策	1	生活を豊かにする生涯学習の推進						
	基本事業	3	青少年の健全育成						

2. 事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

（1）事業概要

事業概要	田沼中央公民館・葛生あくとプラザの2会場で開催する二十歳のつどいの企画運営について、二十歳のつどい参加対象者を対象に委員を募集し、自らの二十歳のつどいを企画運営することを支援する。
------	--

（2）目的

目的 (本事業によって成し遂げたい状態)	式典を二十歳の方が自ら企画運営することにより、二十歳のつどいの意義を理解し、二十歳にふさわしい自立心を醸成する。	効果指標	単位	指標の性質	R7	R8	R9	R10	R11
		自分が成長し自立したと感じる新成人の割合	%	値が大きいほど良い	95	95.5	96.0	96.5	97.0

3. 前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

（1）活動実績

活動実績 (R7年度に行った主な活動内容)	二十歳のつどい企画運営委員数 計30名 田沼1部：7人 2部：7人 葛生1部：9人 2部：7人 企画運営委員会議開催数 田沼会場：5回 葛生会場：5回 各会場ともに、1・2部は分けずに全て同日に開催した。 ※R6以前は3会場での開催であったため、会議開催数は減少した。	活動指標	単位	R4	R5	R6	R7
		企画運営委員数	人	27	28	29	30
		会議開催数	回	14	15	15	10
		事業費計	千円	145	145	146	146
		一般財源	千円	145	145	146	146
		特定財源（国・県・他）	千円				
		（うち受益者負担）	千円				

（3）活動による効果

効果説明	30名の企画運営委員の方にそれぞれの会場でのアトラクションの企画および式典、アトラクションの進行を担当していただいた。	効果指標	単位	R4	R5	R6	R7	過去比較	目標達成
		自分が成長し自立したと感じる新成人の割合	%	100	100	97	100	効果が上がった	○

（5）目標達成、効果、費用増減（自動判定）

目標達成		目標達成した指標数		1指標		効果							
		目標未達成だった指標数		0指標		効果が上がった		効果は変わらない		効果が下がった			
効果 (R7と過去3年平均の指標値増減)		効果が上がった指標数		1指標		目標達成	達成 未達成 目標未設定						
		効果は変わらない指標数		0指標									
		効果が下がった指標数		0指標									
		指標全体		効果が上がった									
費用（R7とR6の事業費計増減）				費用の増減無し				※ 1 0 万円以上の増減により判断					

※10万円以上の増減により判断

4. 次年度に向けた検討

（1）令和7年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

大学進学や就業等により、当日現地に行くことができない方でも会議に参加できるよう、会議は対面、オンライン両面で行った。
--

（2）上記反省点及び課題を踏まえた、令和8年度及び9年度の取組

☐ 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成） ☐ 事業費の見直し検討（新たな歳入確保・受益者負担含む） ☐ 業務の効率化・高度化（デジタル化）検討 ☐ 業務の効率化（デジタル化以外の業務手順・手法の見直し）検討 ☐ その他の検討 ☒ 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）	取組説明
---	------

仕事の振り返りシート（令和7年度実施分）

事業名	佐野市ボーイスカウト・ガールスカウト連絡協議会支援事業	実施計画事業or一般事業	一般事業	市長公約①	該当なし	市長公約②	該当なし	総合戦略	該当なし
		施策横断的な取組との関連性	SDGs		該当あり	コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ	該当なし

1. 基本情報

担当組織	部	教育部		予算中事業名	予算科目	会計	一般	事業計画	単年度繰り返し	
	課	生涯学習課				佐野市ボーイスカウト・ガールスカウト連絡協議会支援事業	款	10	新規or継続	継続事業
	係	社会教育係					項	4	市単独or国県補助	市単独事業
政策体系	体系コード	4213	名称	根拠法令、条例等	事業期間	目	1	義務or任意	任意の事業	
	基本目標	4	豊かな心を育み、学び合うまちづくり			開始年度	S47	実施方法	直営	
	政策	2	地域とともに学び育てるまちづくり				終了年度	-	事業分類	支援事業
	施策	1	生活を豊かにする生涯学習の推進							
	基本事業	3	青少年の健全育成							
			社会教育法(第11条)							
			佐野市社会教育関係団体補助金交付要領							

2. 事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

（1）事業概要

事業概要	佐野市ボーイスカウト・ガールスカウト連絡協議会に補助金を交付している。補助金は、この団体の運営費補助としての性格のものである。佐野市ボーイスカウト・ガールスカウト連絡協議会はボーイスカウト日本連盟、ガールスカウト日本連盟の諸規定に従い、青少年を育成し、相互の連絡提携を図り、もって地域社会や国際社会に貢献することを目的に設立した団体。
------	---

（2）目的

目的 (本事業によって成し遂げたい状態)	佐野市ボーイスカウト・ガールスカウト連絡協議会の円滑な運営と財政の健全化を図り、学習で培った知識・技術を社会へ還元できる。	効果指標	単位	指標の性質	R7	R8	R9	R10	R11
		補助金執行率	%	値が大きいほど良い	100	100	100	100	100

3. 前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

（1）活動実績

活動実績 (R7年度に行った主な活動内容)	【市の活動】 ・補助金交付 【佐野市ボーイスカウト・ガールスカウト連絡協議会の活動】 ・市主催の各種イベントへの協力参加 ・ヤング街頭キャンペーン等	活動指標	単位	R4	R5	R6	R7
		補助団体数	団体	1	1	1	1
		事業費計	千円	70	70	70	70
		一般財源	千円	70	70	70	70
		特定財源（国・県・他）	千円				
		（うち受益者負担）	千円				

（2）活動を説明する数値データ及び事業費の推移

（3）活動による効果

効果説明	佐野市ボーイスカウト・ガールスカウト連絡協議会に補助金を支出することにより、活動の充実と青少年の健全育成を図ることができた。	効果指標	単位	R4	R5	R6	R7	過去比較	目標達成
		補助金執行率	%	100	100	100	100	効果は変わらない	○

（4）事業効果を説明する数値データの推移

（5）目標達成、効果、費用増減（自動判定）

目標達成 (R7と過去3年平均の指標値増減)	目標達成した指標数	1指標	効果		
	目標未達成だった指標数	0指標			
	効果が上がった指標数	0指標	効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった
	効果は変わらない指標数	1指標	達成	1指標	
	効果が下がった指標数	0指標	未達成		
	指標全体	効果は変わらない	目標未設定		
費用（R7とR6の事業費計増減）		費用の増減無し	※ 1 0 万円以上の増減により判断		

4. 次年度に向けた検討

（1）令和7年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

引き続き補助金の交付と合わせ、適時適切な助言や支援を行う。

（2）上記反省点及び課題を踏まえた、令和8年度及び9年度の取組

☐ 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成）

☐ 事業費の見直し検討（新たな歳入確保・受益者負担含む）

☐ 業務の効率化・高度化（デジタル化）検討

☐ 業務の効率化（デジタル化以外の業務手順・手法の見直し）検討

☐ その他の検討

☒ 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）

取組説明

仕事の振り返りシート（令和7年度実施分）

事業名	子ども会ジュニアリーダー研修会開催事業	実施計画事業or一般事業	実施計画事業	市長公約①	該当なし	市長公約②	該当なし	総合戦略	該当なし
		施策横断的な取組との関連性	SDGs		該当あり	コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ	該当なし

1. 基本情報

担当組織	部	教育部	予算中事業名	予算科目	会計	一般	事業計画	単年度繰り返し
	課	生涯学習課	子ども会ジュニアリーダー研修		款	10	新規or継続	継続事業
	係	社会教育係	会開催事業		項	4	市単独or国県補助	市単独事業
政策体系	体系コード	4213	名称	事業期間	目	1	義務or任意	任意的事業
	基本目標	4	豊かな心を育み、学び合うまちづくり		開始年度	S50	実施方法	直営
	政策	2	地域とともに学び育てるまちづくり		終了年度	-	事業分類	教育・指導事業
	施策	1	生活を豊かにする生涯学習の推進					
	基本事業	3	青少年の健全育成					

2. 事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

（1）事業概要

事業概要	子ども会活動での中心的役割を担う小学校及び義務教育学校5,6年生を対象に、団体行動や自然体験を通じてジュニアリーダーとしての知識や技術を習得し、子ども会活動の進展及び活性化を図るための研修会を開催する。
------	---

（2）目的

目的 (本事業によって成し遂げたい状態)	研修を通じてジュニアリーダーとしての知識や技術を習得し、子ども会活動の進展及び活性化を図る。	（3）目標値	↓選択して下さい		後期計画				
		効果指標	単位	指標の性質	R7	R8	R9	R10	R11
		研修会開催回数	回	値が大きいほど良い	1	1	1	1	1

3. 前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

（1）活動実績

活動実績 (R7年度に 行った主な活 動内容)	日時：6月21日（土）9時～15時 会場：佐野市こどもの国 内容：仲間づくり、危険予知トレーニング、ネイチャービンゴ、とちぎ花 センター散策、リーダーについて 等	活動指標	単位	R4	R5	R6	R7
		研修会参加者数	人	0	0	24	12
		事業費計	千円	0	0	8	3
		一般財源	千円	0	0	8	3
		特定財源（国・県・他）	千円				
		（うち受益者負担）	千円				

（2）活動を説明する数値データ及び事業費の推移

（3）活動による効果

効果説明	参加者アンケートでは、参加者12名のうち、全員が「リーダーについて学ぶことができた」、「参加して良かった」と回答した。	効果指標	単位	R4	R5	R6	R7	過去比較	目標達成
		研修会開催回数	回	1	1	1	1	効果は変わらない	○

（4）事業効果を説明する数値データの推移

（5）目標達成、効果、費用増減（自動判定）

目標達成	目標達成した指標数	1指標	効果				
	目標未達成だった指標数	0指標	効果が上がった			効果が変わらない	効果が下がった
効果 (R7と過去3年平均の指標値増減)	効果が上がった指標数	0指標	目標達成	達成		1指標	
	効果は変わらない指標数	1指標		未達成			
	効果が下がった指標数	0指標	目標未設定				
	指標全体	効果は変わらない					
費用（R7とR6の事業費計増減）		費用の増減無し		※ 1 0万円以上の増減により判断			

4. 次年度に向けた検討

（1）令和7年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

令和6年度に続き、事業を実施することができた。次年度以降についても、引き続き佐野市子ども会連合会と連携し、事業を実施していく。

（2）上記反省点及び課題を踏まえた、令和8年度及び9年度の取組

☐ 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成） ☐ 事業費の見直し検討（新たな歳入確保・受益者負担含む） ☐ 業務の効率化・高度化（デジタル化）検討 ☐ 業務の効率化（デジタル化以外の業務手順・手法の見直し）検討 ☐ その他の検討 ☒ 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）	取組説明
---	------

仕事の振り返りシート（令和7年度実施分）

事業名	子ども会育成者研修講座開催事業	実施計画事業or一般事業	一般事業	市長公約①	該当なし	市長公約②	該当なし	総合戦略	該当なし
		施策横断的な取組との関連性	SDGs		該当あり	コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ	該当なし

1. 基本情報

担当組織	部	教育部		予算中事業名	予算科目	会計	一般	事業計画	単年度繰り返し
	課	生涯学習課				款	10	新規or継続	継続事業
	係	社会教育係				項	4	市単独or国県補助	市単独事業
政策体系	体系コード	4213	名称	根拠法令、条例等		目	1	義務or任意	任意の事業
	基本目標	4	豊かな心を育み、学び合うまちづくり		事業期間	開始年度	S51	実施方法	直営
	政策	2	地域とともに学び育てるまちづくり			終了年度	-	事業分類	教育・指導事業
	施策	1	生活を豊かにする生涯学習の推進						
	基本事業	3	青少年の健全育成						

2. 事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

（1）事業概要

事業概要	子どもたちの健全育成と子ども会活動の活性化を図るため、子ども会の育成者・指導者を対象に、育成者・指導者としての基本的な知識や技能を習得する研修会を開催する。
------	--

（2）目的

目的 (本事業によって成し遂げたい状態)	研修を通じて子ども会の育成者・指導者としての知識や技能を修得し、子どもたちの健全育成と子ども会活動の活性化を図る。	（3）目標値	↓選択して下さい		後期計画				
		効果指標	単位	指標の性質	R7	R8	R9	R10	R11
		研修講座開催回数	回	値が大きいほど良い	1	1	1	1	1

3. 前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

（1）活動実績

活動実績 (R7年度に行った主な活動内容)	佐野市子ども会連合会との話し合いにより、開催方法や事業内容の見直しを行うことになったため、開催を見合わせた。	活動指標	単位	R4	R5	R6	R7
		研修講座参加者数	人	0	0	0	0
		事業費計	千円	0	0	0	0
		一般財源	千円	0	0	0	0
		特定財源（国・県・他）	千円				
		（うち受益者負担）	千円				

（2）活動を説明する数値データ及び事業費の推移

（3）活動による効果

効果説明		（4）事業効果を説明する数値データの推移	効果指標	単位	R4	R5	R6	R7	過去比較	目標達成
			研修講座開催回数	回	0	0	0	0	効果は変わらない	×

（5）目標達成、効果、費用増減（自動判定）

目標達成	目標達成した指標数	0指標	効果		
	目標未達成だった指標数	1指標			
	効果が上がった指標数	0指標	効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった
	効果は変わらない指標数	1指標	達成		
	効果が下がった指標数	0指標	未達成	1指標	
効果 (R7と過去3年平均の指標値増減)	指標全体	効果は変わらない	目標未設定		
費用（R7とR6の事業費計増減）	費用の増減無し	※ 1 0 万円以上の増減により判断			

4. 次年度に向けた検討

（1）令和7年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

子ども会連合会での協議の結果、事業を実施できなかった。

（2）上記反省点及び課題を踏まえた、令和8年度及び9年度の取組

☐ 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成） ☐ 事業費の見直し検討（新たな歳入確保・受益者負担含む） ☐ 業務の効率化・高度化（デジタル化）検討 ☐ 業務の効率化（デジタル化以外の業務手順・手法の見直し）検討 ☒ その他の検討 ☐ 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）	取組説明 研修講座の開催方法等について、佐野市子ども連合会と話し合いながら進めていく。
---	--